



長万部まちづくりアクションプラン

長万部まちづくり推進会議
長万部町

2018年3月



－ 目次 －

1. 長万部まちづくりアクションプランとは	1
2. アクションプランの推進内容	
I. 交通アクセス分野	
I-1 利便性の高い駅機能の確保	5
I-2 長万部駅を起点とした交通アクセス機能の向上	10
I-3 駅周辺における駐車機能の確保	13
I-4 多様な利用者に配慮した移動空間の確保	15
I-5 ニーズに合わせた二次交通サービスの充実	17
I-6 二次交通網構築等に関する広域的な協議の場づくり	20
I-7 高架下空間の有効活用	21
II. まちなみ形成分野	
II-1 中心市街地における商業機能の確保	22
II-2 交通拠点「まちの駅」の整備	24
II-3 地域資源を活用した特産品の開発	27
II-4 長万部のシンボルとなる駅舎デザインの検討	29
III. 観光振興分野	
III-1 市場環境に対応した施設の多様化	32
III-2 食の活用による需要の通年化	34
III-3 新幹線開業に向けたブランド力の強化	39
III-4 地域連携DMOの実現	43
III-5 移住定住の促進	46
参考資料	47

【策定趣旨】

長万部町では、2030年度末の北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）開業を契機とした将来の発展を見据え、2016年3月にまちづくりのビジョンとなる「新幹線を核としたまちづくり実行計画」、2017年3月には、まちづくりを具体的に進めていくための「新幹線駅周辺整備計画」を策定したところです。

今後、住民、企業、行政が一体となり、周辺自治体とも連携しながら、新幹線開業に向けた準備をスタートさせ、開業効果を最大限に発揮するための様々な取組みを着実に進めていく必要があります。

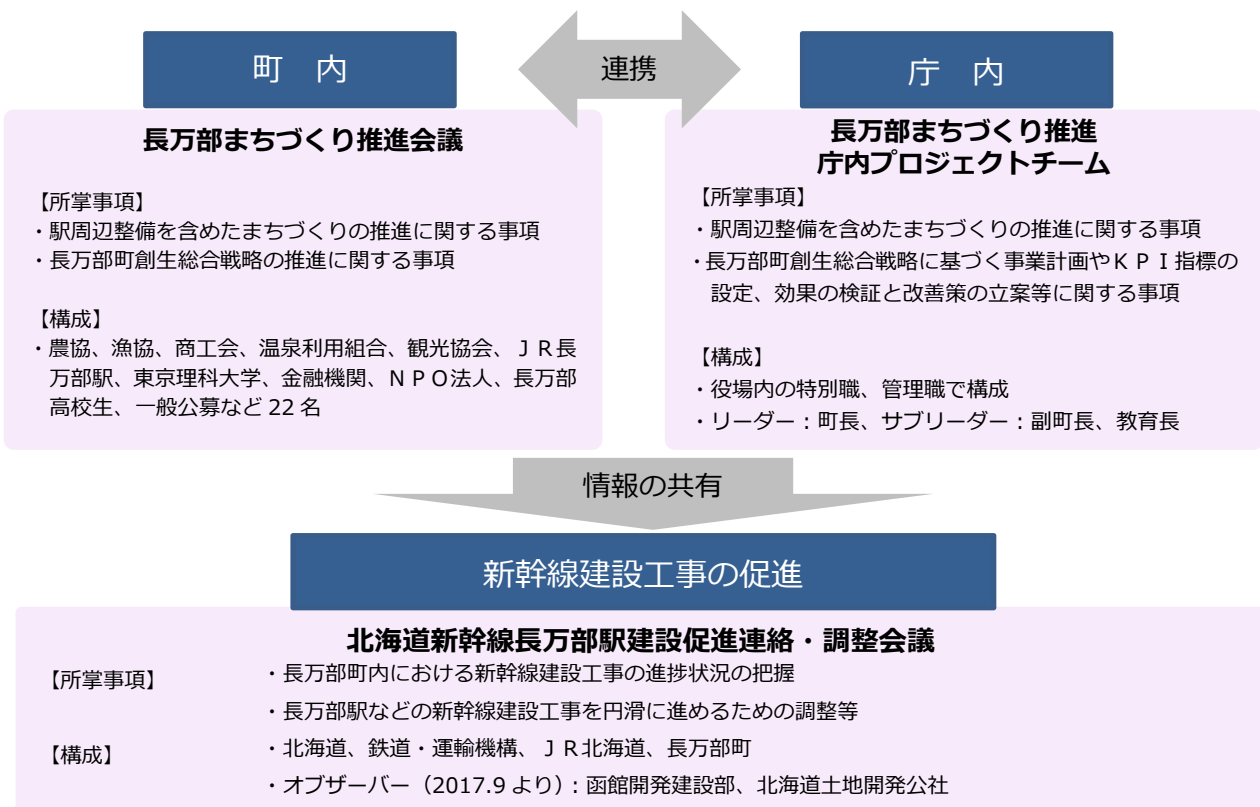
こうしたことから、本アクションプランは、活力あふれる長万部町が実現するよう、新幹線開業に向けた様々な取組みの行動指針として提言するものです。

【推進期間】

推進期間は、2018年度から新幹線長万部駅の開業が予定される2030年度までとします。

【推進体制】

「長万部まちづくり推進会議（以下、「推進会議」）」と「長万部まちづくり推進庁内プロジェクトチーム」が連携しながら本アクションプランの推進管理を行うとともに、「北海道新幹線長万部駅建設促進連絡・調整会議」を通じて関係機関との情報共有を図ります。



長万部まちづくりアクションプラン 推進体制

【検討経緯】

○推進会議

2016	第1回 推進会議	2016年7月19日	会議や部会の設置等について
	第2回 推進会議	2016年9月27日	駅周辺整備,マルシェ,モニターツアーについて
	第3回 推進会議	2016年12月26日	二次交通の検討,駅周辺整備等について
	第4回 推進会議	2017年2月14日	駅周辺整備と観光交流拠点等について
	第5回 推進会議	2017年3月1日	中心市街地の活性化方策等について
	第6回 推進会議	2017年3月13日	新幹線駅周辺整備計画(案)について
2017	第1回 推進会議	2017年4月26日	今年度の検討事項等について
	第2回 推進会議	2017年7月6日	まちの駅・本町通・温泉街について
	第3回 推進会議	2017年11月13日	高校生の発表やまちの駅等について
	第4回 推進会議	2017年12月7日	自由通路・駅前広場について
	第5回 推進会議	2018年1月22日	特別講演の実施,自由通路等について
	第6回 推進会議	2018年2月23日	アクションプラン(案)について

○まちなみ部会

2016	第1回 まちなみ部会	2016年9月27日	マルシェの開催方法、地元の味について
	第2回 まちなみ部会	2016年10月17日	マルシェの具体的な実施内容について
	第3回 まちなみ部会	2016年11月22日	今後の取組みについて
2017	第1回 まちなみ部会	2017年8月8日	まちの駅・本町通の整備方針について
	第2回 まちなみ部会	2017年8月31日	まちの駅・本町通の整備方針について
	第3回 まちなみ部会	2017年10月31日	道の駅視察研修報告,まちの駅等について
	第4回 まちなみ部会	2017年12月1日	自由通路・駅前広場について
	第5回 まちなみ部会	2017年12月26日	自由通路について
	第6回 まちなみ部会	2018年1月15日	自由通路・まちの駅について
	第7回 まちなみ部会	2018年2月7日	今年度の検討内容について

○観光振興部会

2016	第1回 観光振興部会	2016年10月18日	観光資源やモニターツアーについて
	第2回 観光振興部会	2016年12月7日	今後の具体的な取組みについて
	第3回 観光振興部会	2017年2月8日	観光プログラムのワークショップの実施
2017	第1回 観光振興部会	2017年10月26日	モニターツアーについて
	第2回 観光振興部会	2017年11月20日	モニターツアーの実施
	第3回 観光振興部会	2017年12月18日	フェロジ-カレンダー,温泉街の活性化等について
	第4回 観光振興部会	2018年2月6日	新メニュー開発のグル-ポイントビュ-調査の実施

【推進の方向性】

長万部町の現状及び課題を踏まえ、以下に示す3分野16プロジェクト30施策の取組みを推進します。

分野	プロジェクト	課題解決に繋がる施策	現状及び課題
交通アクセス分野	利便性の高い駅機能の確保	・長万部駅の東西を結ぶ自由通路の整備 ・長万部駅を起点とした乗継客の利便性の確保 ・長万部駅を起点とした在来線客の利便性の確保	← ・東西市街地の連携強化 ・室蘭、苫小牧方面へのアクセス性の充実 ・新幹線と在来線（小樽方面、函館方面）のアクセス性の充実
	長万部駅を起点とした交通アクセス機能の向上	・長万部駅東口および西口の駅前広場の整備 ・長万部駅を起点としたアクセス道路の整備	← ・鉄道駅利用者の急増に対応したターミナル機能やアクセス道路機能の強化 ・長万部の顔となる空間及び機能の確保 ・広域的な利用客の利便性向上
	駅周辺における駐車機能の確保	・高架下の空間等を活用した利便性の高い駐車場の整備	← ・開業時における駐車場需要の急増への対応 ・地域特性（積雪・寒冷等）を踏まえ、駐車場利用客の利便性に配慮した駐車場の配置及び性能確保
	多様な利用者に配慮した移動空間の確保	・駅周辺で利用者が円滑に移動できる移動空間の確保 ・災害時における駅利用者の安全を確保する施設や仕組みづくり	← ・多様なバリアフリーニーズ（車椅子だけでなく、大きなキャスター付きスーツケースを持ったまま駅の階段を昇降する外国人観光客など）の存在 ・駅利用客の拡大に合わせ多様性に配慮した空間づくり ・大規模な災害時等の新幹線利用者等の受け入れ体制や避難ルートの構築が必要
	二次交通網構築等に関する広域的な協議の場づくり	・町および広域エリアでの二次交通網の構築等に向けた協議等を行う場の形成	← ・長万部駅の広域的な拠点性を向上させる多様な二次交通サービスの検討においては、広域的な自治体や交通事業者との連携が必要
	ニーズに合わせた二次交通サービスの充実	・長万部駅を起点とした広域エリアの観光拠点等を結ぶバスアクセス網及びタクシーサービスの提供 ・広域エリアを周遊するためのレンタカー機能の誘致 ・長万部を含む広域エリアで利用可能なエリアフリーパスの提供	← ・新幹線長万部駅を起点とした公共交通利用者の乗継ニーズへの対応 ・長万部駅の広域的な拠点性を向上させる多様な二次交通サービス
	高架下空間の有効活用	・高架下空間の有効活用の促進	← ・長万部駅及び駅前後区間の構造（高高架構造）を踏まえた、高架下空間の有効利用
まちなみ形成分野	中心市街地における商業機能の確保	・長万部駅周辺における民間を主体とした商業空間の検討 ・長万部駅周辺における長万部の顔となる商業機能を支える基盤整備	← ・新幹線開業に向け、長万部の顔となる空間の確保 ・長万部駅の乗降客の町内への消費や周遊を促す空間づくり ・次世代の地域の商業を支える事業者及び人的資源の確保
	交流拠点「まちの駅」の整備	・長万部駅周辺に特産品販売や飲食機能、観光情報提供機能をもたせた交流拠点「まちの駅」の整備	← ・新幹線開業に向け、長万部の顔となる空間の確保 ・長万部駅の乗降客の消費促進
	地域資源を活用した特産品の開発	・長万部町内の地域資源を活用した特産品の開発	← ・新幹線開業に向け、長万部の個性を活かした特産品づくり ・長万部駅の乗降客による消費を地域経済に波及させる体制づくり
	長万部のシンボルとなる駅舎デザインの検討	・地域の象徴となる駅舎デザインの検討	← ・高高架構造になることにより、駅舎を含めて市街地の景観が大きく変化
観光振興分野	市場環境に対応した施設の多様化	・施設づくり（既存宿泊施設の改修・新設等）の支援 ・長万部温泉街との連携による町内外からの新規参入の促進	← ・深刻な施設の老朽化及び偏ったターゲット層の解消 ・温泉資源の有効活用による収益性向上 ・増加する外国人客や新幹線によって増加する個人客への対応
	食の活用による需要の通年化	・長万部町内の「あたり前」とされる素材・調理法の磨き上げ ・広域エリア（南後志や檜山北部、西胆振等）の食材の発掘 ・閑散期における町内・広域エリアでの旬の食材を活用したキャンペーンの展開	← ・深刻な観光入込の季節変動 ・地域固有の食文化の活用 ・新幹線で来訪する客層に合わせた広域的な視点での食材発掘
	新幹線開業に向けたブランド力の強化	・外国人観光客の取り込みへ向けた宿泊施設等の対応力の強化 ・長万部の資源を活用した観光プログラムの開発 ・温泉街全体のブランド力を高めるようなシンボリックな空間づくり	← ・増加する外国人客や観光ニーズの多様化への対応 ・地域固有の観光資源の見直し ・長万部温泉の温泉街としての魅力向上
	地域連携 DMO の実現	・観光協会を核とした町内および広域的な視点での観光振興を推進する組織づくり ・駅周辺エリアにおける町内および広域的な観光情報の提供 ・地域において急激に変化する観光市場の動向に対応できる人材育成	← ・観光需要を地域産業の育成や雇用の拡大に結びつける機能の強化 ・新幹線開業に伴う需要層の変化を踏まえた広域的な連携 ・急激に変化する観光市場動向を踏まえた戦略的な思考や外国人対応ができる人材の育成
	移住・定住の促進	・長万部町内への移住・定住の促進	← ・町内の居住人口が年々減少 ・新幹線開業のメリットを活かし、二地域居住も視野に入れた定住人口の拡大

【ロードマップ】

このロードマップに基づき、新幹線開業の数年前に取組が集中しないよう、分散化を図ります。

分野	項目	概要	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030			
交通アクセス分野	利便性の高い駅機能の確保	長万部駅の東西を結ぶ自由通路の整備	都市マスタープラン等の策定による位置付けの検討 関係機関協議		都市計画決定			予備設計		測量	詳細設計		自由通路の整備					
		長万部駅を起点とした乗継客の利便性の確保	関係機関協議		乗継路線整備に向けた町としての要望			乗継路線の設計		乗継路線の整備用地買収								
		長万部駅を起点とした在来線利用客の利便性の確保	関係機関協議															
	長万部駅を起点とした交通アクセス機能の向上	長万部駅東口および西口の駅前広場の整備	都市マスタープラン等の策定による位置付けの検討 関係機関協議		予備設計		新規事業採択時評価		事業認可及び測量		詳細設計		用地買収		駅前広場の整備			
		長万部駅を起点としたアクセス道路の整備	都市マスタープラン等の策定による位置付けの検討 関係機関協議		都市計画決定		整備に向けた測量		詳細設計		用地買収		アクセス道路の整備					
	駅周辺における駐車機能の確保	高架下の空間等を活用した利便性の高い駐車場の整備	都市マスタープラン等の策定による位置付けの検討		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		測量		詳細設計		駐車場の整備	
	多様な利用者に配慮した移動区間の確保	駅周辺におけるバリアフリーに配慮した円滑な移動空間の確保	都市マスタープラン等の策定による位置付けの検討		バリアフリー基本構想の策定		バリアフリー基本構想の各種基盤整備事業への適用		バリアフリー基本構想の各種基盤整備事業への適用		バリアフリー基本構想の各種基盤整備事業への適用		バリアフリー基本構想の各種基盤整備事業への適用		バリアフリー基本構想の各種基盤整備事業への適用		バリアフリー基本構想の各種基盤整備事業への適用	
		災害時における駅利用者等の安全を確保する施設や仕組みづくり	都市マスタープラン等の策定による位置付けの検討		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定	
	ニーズに合わせた二次交通サービスの充実	長万部駅を起点とした広域エリアの観光拠点等を結ぶバスアクセス網及びタクシーサービスの提供	都市マスタープラン等の策定による位置付けの検討		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定	
		広域エリアを周遊するためのレンタカー機能の誘致	都市マスタープラン等の策定による位置付けの検討		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定	
長万部を含む広域エリアで利用可能なエリアフリーバスの提供		都市マスタープラン等の策定による位置付けの検討		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		
二次交通網構築等に関する広域的な協議の場づくり	町および広域エリアでの二次交通網の構築等に向けた協議等を行う場の形成	都市マスタープラン等の策定による位置付けの検討		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		
高架下空間の有効活用	高架下空間の有効活用の促進	都市マスタープラン等の策定による位置付けの検討 関係機関協議		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		
まちなみ形成分野	中心市街地における商業機能の確保	長万部駅周辺における民間を主体とした商業空間の検討	商店街の担い手に対する意向把握		本町通における商業機能の確保に向けた戦略づくり		本町通の拡幅に伴う補償費等の算定		本町通の拡幅に伴う補償費等の算定		本町通の拡幅に伴う補償費等の算定		本町通の拡幅に伴う補償費等の算定		本町通の拡幅に伴う補償費等の算定			
		長万部駅周辺における長万部の顔となる商業機能を支える基盤整備	都市マスタープラン等の策定による位置付けの検討 関係機関協議		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定	
	交流拠点「まちの駅」の整備	長万部駅周辺に特産品販売や飲食機能、観光情報提供機能をもたせた交流拠点「まちの駅」の整備	都市マスタープラン等の策定による位置付けの検討 関係機関協議		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定		都市計画決定			
	地域資源を活用した特産品の開発	長万部町内の地域資源を活用した特産品の開発	特産品の開発の組織づくり		特産品開発の支援制度の創設		特産品開発の支援制度の創設		特産品開発の支援制度の創設		特産品開発の支援制度の創設		特産品開発の支援制度の創設		特産品開発の支援制度の創設			
観光振興分野	市場環境に対応した施設の多様化	施設づくり（既存宿泊施設の改修・新設等）の支援	既存事業者の意向把握・制度の方針検討		支援する制度の特組み決定		支援する制度の特組み決定		支援する制度の特組み決定		支援する制度の特組み決定		支援する制度の特組み決定		支援する制度の特組み決定			
		長万部温泉街との連携による町内外からの新規参入の促進	既存事業者の意向把握		利用可能な敷地等の把握・調整		新規参入の促進に向けた条件整理		新規参入の促進に向けた条件整理		新規参入の促進に向けた条件整理		新規参入の促進に向けた条件整理		新規参入の促進に向けた条件整理			
	食の活用による需要の通年化	長万部が育んだ素材・調理法の磨き上げ	町内の素材・調理法の抽出		町内の素材・調理法の抽出		町内の素材・調理法の抽出		町内の素材・調理法の抽出		町内の素材・調理法の抽出		町内の素材・調理法の抽出		町内の素材・調理法の抽出			
観光振興分野	新幹線開業に向けたブランド力の強化	外国人観光客の取り込みへ向けた宿泊施設等の対応力の強化	接客セミナーの開催		外国人向けプロモーションツール等の整備		外国人向けプロモーションツール等の整備		外国人向けプロモーションツール等の整備		外国人向けプロモーションツール等の整備		外国人向けプロモーションツール等の整備		外国人向けプロモーションツール等の整備			
		長万部の資源を活用した観光プログラムの開発	観光プログラムの開発		観光プログラムの開発		観光プログラムの開発		観光プログラムの開発		観光プログラムの開発		観光プログラムの開発		観光プログラムの開発			
	温泉街全体のブランド力を高めるようなシンボリックな空間づくり	温泉街全体のブランド力を高めるようなシンボリックな空間づくり		温泉街全体のブランド力を高めるようなシンボリックな空間づくり		温泉街全体のブランド力を高めるようなシンボリックな空間づくり		温泉街全体のブランド力を高めるようなシンボリックな空間づくり		温泉街全体のブランド力を高めるようなシンボリックな空間づくり		温泉街全体のブランド力を高めるようなシンボリックな空間づくり		温泉街全体のブランド力を高めるようなシンボリックな空間づくり				
	地域連携DMOの実現	観光協会を核とした町内および広域的な視点での観光振興を推進する組織づくり	観光協会を核とした町内および広域的な視点での観光振興を推進する組織づくり		観光協会を核とした町内および広域的な視点での観光振興を推進する組織づくり		観光協会を核とした町内および広域的な視点での観光振興を推進する組織づくり		観光協会を核とした町内および広域的な視点での観光振興を推進する組織づくり		観光協会を核とした町内および広域的な視点での観光振興を推進する組織づくり		観光協会を核とした町内および広域的な視点での観光振興を推進する組織づくり		観光協会を核とした町内および広域的な視点での観光振興を推進する組織づくり			
移住・定住の促進	長万部町内への移住・定住の促進	移住・定住の促進	移住・定住の促進		移住・定住の促進		移住・定住の促進		移住・定住の促進		移住・定住の促進		移住・定住の促進		移住・定住の促進			
		移住・定住の促進	移住・定住の促進		移住・定住の促進		移住・定住の促進		移住・定住の促進		移住・定住の促進		移住・定住の促進		移住・定住の促進			
		移住・定住の促進	移住・定住の促進		移住・定住の促進		移住・定住の促進		移住・定住の促進		移住・定住の促進		移住・定住の促進		移住・定住の促進			

北海道新幹線新函館北斗・札幌間開業

2 アクションプランの推進内容

I. 交通アクセス分野

【 I-1 利便性の高い駅機能の確保 】

▶ 施策①：長万部駅の東西を結ぶ自由通路の整備

→長万部駅東口にある商店街と西口にある温泉街を結ぶアクセス路として、駅を中心とした市街地間の交流を促す自由通路を整備する。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・新幹線駅に最も近接する北側への配置
- ・新幹線改札と自由通路を連絡する通路を確保し、幅広いたまり空間を想定
- ・新幹線と在来線の乗り換え利便性を確保
- ・東口からの利便性の確保
- ・西口昇降口は新幹線駅を共有
- ・自由通路幅員はバリアフリー、観光客の移動などに配慮してスペースを確保
- ・修学旅行や緊急時に対応可能なたまり空間の確保
- ・東口昇降口はまちの駅とのアクセスを考慮
- ・駅利用者がまちの駅や商店街に楽しんでアクセスできるような仕掛けづくり
- ・津波時の避難ルートとしての活用にも配慮

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
都市マスタープラン及び立地適正化計画の策定による位置付けの検討【町】												
関係機関協議【町、JR及び鉄道・運輸機構】												
			都市計画決定【町】									
						予備設計【JR及び鉄道・運輸機構】						
							測量【JR及び鉄道・運輸機構】					
								詳細設計【JR及び鉄道・運輸機構】				
									用地買収【JR及び鉄道・運輸機構】			
										自由通路の整備【町、JR及び鉄道・運輸機構】		

※用地買収については鉄道・運輸機構等関係機関と協議しながらスケジュールを調整

KPI

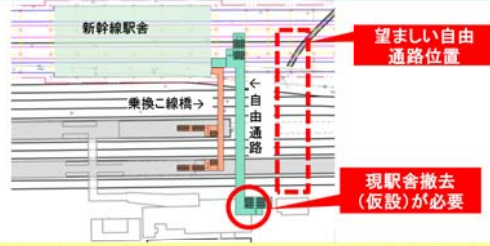
自由通路の1日あたり利用者数

(現状値：なし(跨線橋利用者数は2017年 平日128人/日、休日131人/日))

→(目標値：2031年度 1,750人/日(自由通路中央付近の通行量))

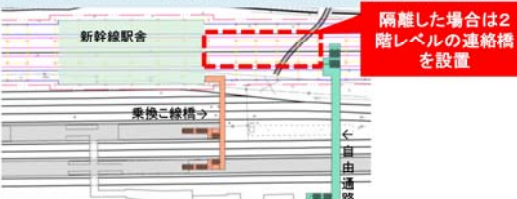
①現駅舎、新幹線高架区間の柱の位置を考慮して、新幹線駅に最も近接する北側への配置とする

- ・現駅舎は支障させない位置に自由通路を設置



②新幹線駅改札と自由通路を連絡する通路を確保し、幅広く溜まり空間を想定する

- ・自由通路と新幹線駅昇降口を兼ねる
- ・必要となるたまり空間を検討算出し設置する



③新幹線と在来線の乗換利便性を確保する

- ・乗換こ線橋(JR整備)・自由通路(自治体整備)を設置



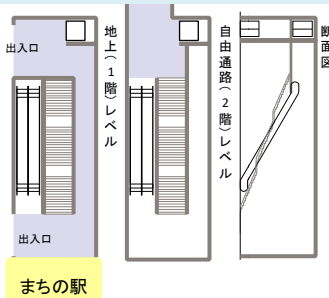
④東口(噴火湾側)がメインとなることから東口からの利便性を高くする

- ・自由通路から在来線への近道となる改札口
- ・乗換こ線橋への連絡橋を確保する



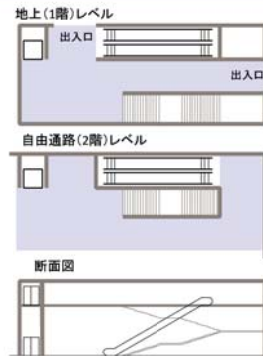
⑧東口昇降口はまちの駅とのアクセスを考えた形式とする

- ・直階段(EV・ES)でまちの駅と接続設置



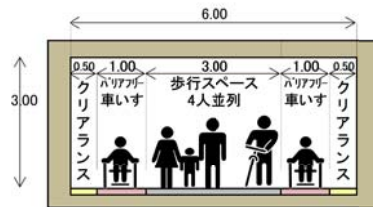
⑤西口(温泉側)昇降口は新幹線駅と共有とする

- ・高架下たまり空間横に折れ階段(EV・ES)設置



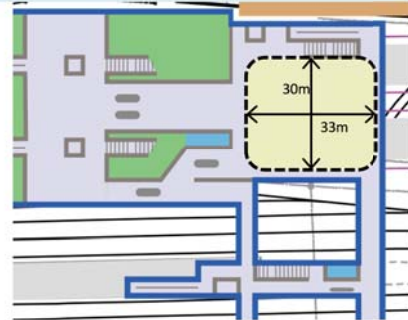
⑥自由通路幅員はバリアフリー・観光客の並列行動・旅行カバン利用によるスペースを確保

- ・各種利用形態による1人当りの幅員を考慮し必要幅員6mを確保



⑦たまり空間は修学旅行や緊急時に対応可能なスペースを確保

- ・ピーク時に1000人が滞留可能な1000㎡(30m×33m)を確保



⑨現自由通路位置では海等を見渡すことが難しいことから昇降口等での眺望空間の確保は考えない

- ・駅前通正面となる駅前広場・新幹線駅構内等での設置にむけ関係機関と協議を進める

⑩乗換跨線橋における利便性を確保する

- ・EVの他ES設置に向け関係機関との協議を進める

推進会議の検討結果を踏まえた自由通路の整備イメージ

▶ 施策②：長万部駅を起点とした乗継客の利便性の確保

→新幹線と在来線（主に室蘭方面）との乗継利便性を確保する。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・新幹線と在来線（主に室蘭方面）との乗換利便性の確保
- ・新幹線から在来線への乗継時間は限られるが、利用客も多いことから、長万部のPR機能や特産品の販売機能などを検討

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	
関係機関協議【町、JR及び鉄道・運輸機構】													
		乗継跨線橋整備に向けた町としての要望【町】											
								乗継跨線橋設計 【JR及び鉄道・運輸機構】					
										乗継跨線橋の整備用地買収 【JR及び鉄道・運輸機構】			

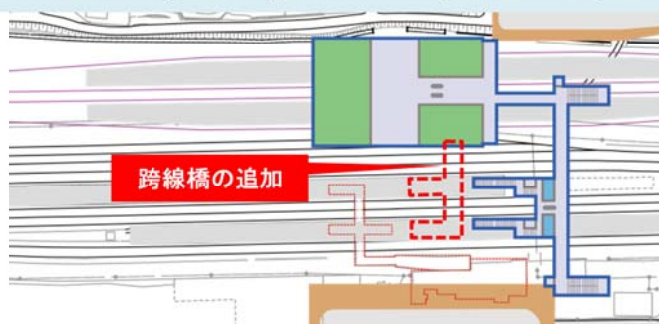
KPI

長万部に停車する特急列車の運行本数の確保

（現状値：2017年度 12本）→（目標値：2031年度 現在の特急停車本数と同数）

新幹線と在来線の乗換利便性を確保する

- ・乗換ご線橋(JR整備)・自由通路(自治体整備)を設置



推進会議の検討結果を踏まえた乗継跨線橋の整備イメージ（再掲）

▶ 施策③：長万部駅を起点とした在来線利用客の利便性の確保

→新幹線を利用しない在来線利用客の利便性を確保する。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・東口からの利便性の確保
- ・町内の在来線利用者に極力配慮（改札口の設置など）した利便性の確保
- ・町内西口・東口双方の方面からの在来線へのアクセス性の確保

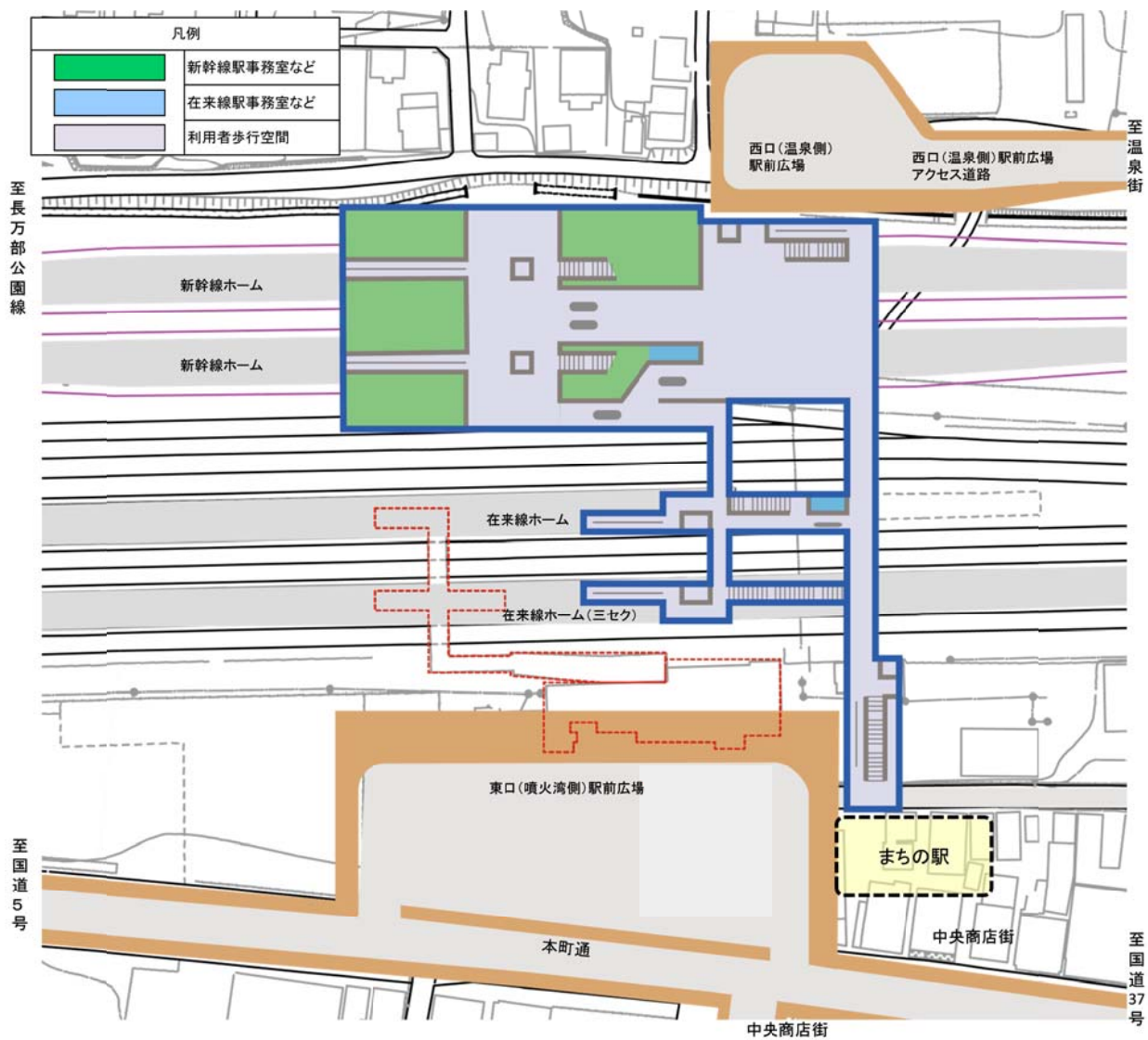
－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	
関係機関協議【町、JR及び鉄道・運輸機構】													
		乗継跨線橋整備に向けた町としての要望【町】											
								乗継跨線橋設計 【JRおよび鉄道・運輸機構】					
										乗継跨線橋の整備用地買収 【JR及び鉄道・運輸機構】			

KPI

本町通から在来線ホームまでの所要時間

（現状値：3分程度）→（目標値：2031年度 現状と同程度）



推進会議の検討結果を踏まえた自由通路の整備イメージ

【 I-2 長万部駅を起点とした交通アクセス機能の向上 】

▶ 施策①：長万部駅東口および西口の駅前広場の整備

→新幹線開業によって増加が予想される長万部駅利用者の円滑な移動を支える駅前広場の整備を行う。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・自由通路や駅舎と駅前広場間の歩行者動線の円滑化
- ・東口を中心とした二次交通機能や駐車場の配置
- ・西口における道道（長万部公園線）からの歩行者動線の確保
- ・駅前広場の出入り口等における違法駐車対策
- ・町民や広域住民、観光客が円滑に移動できるよう駅前広場の規模を確保
- ・長万部らしいシンボリックな空間の確保
- ・バリアフリーや冬期間の移動にも配慮した乗継空間の確保

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
都市マスタープラン及び立地適正化計画の策定による位置付けの検討【町】												
関係機関協議【町、JR及び鉄道・運輸機構】												
		都市計画決定【町】										
		予備設計【道路事業者（道、町）】										
		新規事業採択時評価【道路事業者（道、町）】										
			事業認可及び測量【道路事業者（道、町）】									
				詳細設計【道路事業者（道、町）】								
					用地買収※【道路事業者（道、町）】							
									駅前広場の整備【道路事業者（道、町）】			

※用地買収については鉄道・運輸機構等関係機関と協議しながらスケジュールを調整

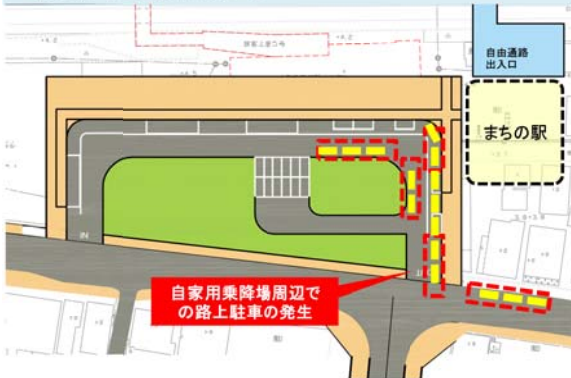
KPI

西口における駅前広場空間の面積

（現状値：なし）→（目標値：2030年度 1,500 m²以上）

①駅前広場内の出入口・まちの駅正面での違法駐車対策が必要である

- ・自動車空間を駅正面から離れた位置で設置する
- ・別途停車空間を確保する



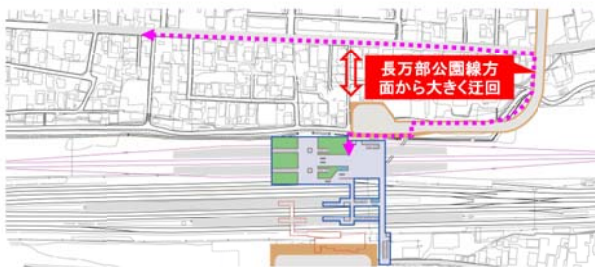
②駐車確保台数については需要に応じた整備量でなく、東口（噴火湾側）に利用者が集中させる必要がある

- ・東側への誘導を図る為の検討を行い、東・西で同程度の駐車場（100台規模）を確保
- ・開業後に不足する場合、西・東で未利用空間を利用した追加を検討



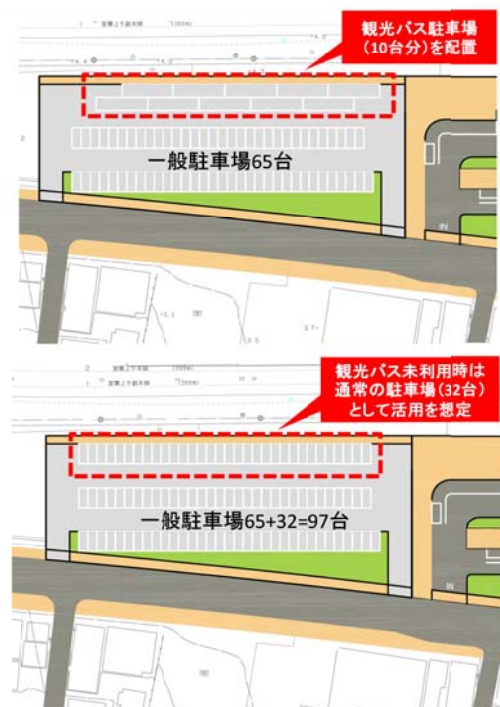
③西口（温泉側）に長万部公園線側からの歩行者動線の確保

- ・温泉前町道からの歩行者通路を検討



④観光バス駐車場についても配置の考え方を整理する

- ・観光バスの利用を想定した駐車場レイアウト案を検討



推進会議の検討結果を踏まえた駅前広場・駐車場の整備イメージ

▶ 施策②：長万部駅を起点としたアクセス道路の整備

→増加が予想される長万部駅を起点とした交通需要を円滑に処理するためのアクセス道路の整備を行う。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・ 道道（長万部公園線）側の住民に向けた歩行者動線の確保
- ・ 西口の都市機能（文化施設等）や温泉街に配慮した新たなアクセス道路の整備
- ・ 地域住民や広域圏の住民利用を見据えた駅西側市街地全体の道路網の機能向上
- ・ 本町通における歩道空間の拡幅・整備

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
都市マスタープラン及び立地適正化計画の策定による位置付けの検討【町】												
関係機関協議【町、JR及び鉄道・運輸機構】												
			都市計画決定【町】									
			西口広場へのアクセス道路の整備に向けた測量【道路事業者】									
					詳細設計【道路事業者】							
							用地買収【道路事業者】					
									アクセス道路整備【道路事業者】			

KPI

西口広場へのアクセス道路の整備率（現状値：なし）→（目標値：2030年度末 100%）

駐車確保台数については需要に応じた整備量でなく、東口（噴火湾側）に利用者が集中させる必要がある

- ・ 東側への誘導を図る為の検討を行い、東・西で同程度の駐車場（100台規模）を確保
- ・ 開業後に不足する場合、西・東で未利用空間を利用した追加を検討



推進会議の検討結果を踏まえた駅前広場・駐車場の整備イメージ（再掲）

【 I-3 駅周辺における駐車機能の確保 】

▶ 施策：高架下の空間等を活用した利便性の高い駐車場の整備

→新幹線開業によって増加することが見込まれる駐車場の需要に対応した利便性の高い駐車場の整備を行う。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・ 東口に利用者を誘導させるよう東西で同程度の駐車場を確保
- ・ 開業後への駐車場不足も考慮し、活用可能な未利用空間を確保
- ・ 駐車場については、積雪時の利用も考慮し、利便性が確保できるよう整備
- ・ 整備時のコスト及び維持コスト負担も含めた費用対効果の視点にも留意し、平面駐車場の整備を基本として検討
- ・ 東口においては、まちの駅利用者の利用にも配慮するとともに、まちの顔としての機能を支援する駐車場を整備
- ・ 西口における高架下の空間の有効活用

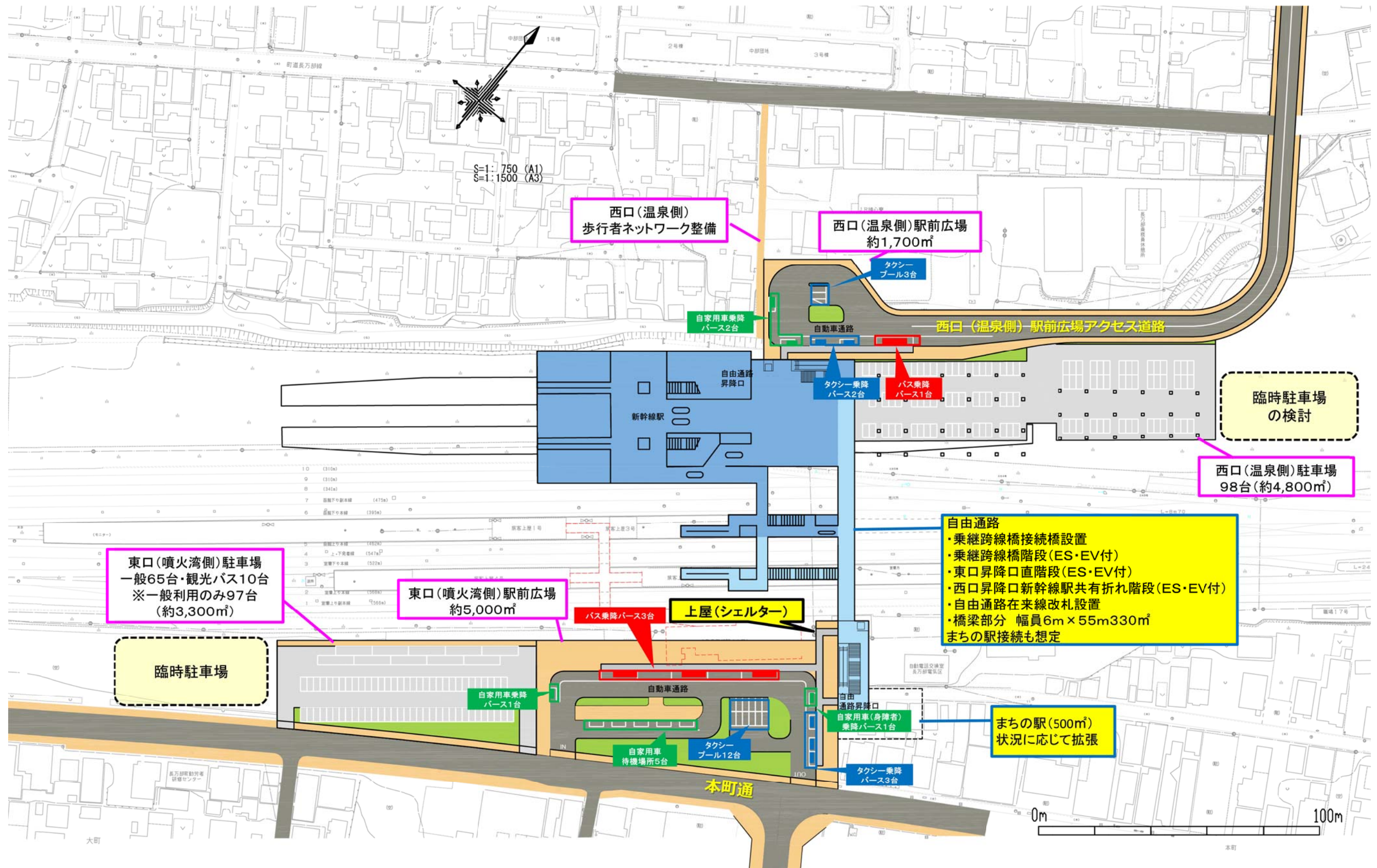
－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
都市マスタープラン及び立地適正化計画の策定による位置付けの検討【町】												
関係機関協議【町、JR及び鉄道・運輸機構】												
									測量【町、鉄道・運輸機構】			
									詳細設計【町、鉄道・運輸機構】			
										駐車場の整備【町、鉄道・運輸機構】		

KPI

駅利用者向け駐車場台数（舗装済み）

（現状値：2017年度 0台）→（目標値：2030年度末 200台以上）



推進会議の検討を踏まえた東口及び西口駅前広場の整備イメージ
 (2017年度)

【 I-4 多様な利用者に配慮した移動空間の確保 】

▶ 施策①：駅周辺におけるバリアフリーに配慮した円滑な移動空間の確保

→駅周辺における車椅子やベビーカー、キャスター付きスーツケース利用者が円滑に移動できる移動空間を確保する。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・新幹線の開業によって必用となる多様な移動ニーズ（車椅子、大きな荷物を持った外国人観光客など）に対応した移動空間の確保
- ・駅構内や駅前広場だけでなく、駐車場や商店街の歩道なども含め、市街地内の一体的なバリアフリー空間の確保
- ・案内などの多言語化による言語的なバリアフリーにも配慮

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
都市マスタープラン及び立地適正化計画の策定による位置付けの検討【町】												
バリアフリー基本構想の策定【町】			バリアフリー基本構想の各種基盤整備事業への適用【各種基盤整備事業の事業主体】									

KPI

駅前広場及び本町通におけるバリアフリーに配慮した歩道延長の整備率

（バリアフリー基本構想に位置づけられたもの）

（現状値：なし）→（目標値：2030年度末 100%）



【事例】バリアフリーに配慮した駅前広場（北陸新幹線糸魚川駅）

▶ **施策②：災害時における駅利用者等の安全を確保する施設や仕組みづくり**

→避難ルートの整備や非常用食料の備蓄、駅舎施設を活用した一時避難場所の確保など、駅利用者や町民の安全を確保する施設や仕組みづくりを行う。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・新幹線駅の構造特性（高高架）を活用し、津波発生時の町民や新幹線利用客の一時避難場所としての機能の確保
- ・新幹線の運行停止時の長万部駅の拠点性も考慮し、新幹線の乗客を一時的に収容できるたまり空間の確保
- ・鉄道事業者と連携した新幹線利用者の非常用食料の備蓄や避難ルートづくり

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
都市マスタープラン及び立地適正化計画の策定による位置付けの検討【町】												
			駅における防災機能についての要望【町から鉄道・運輸機構へ】									
								基本設計・実施設計【鉄道・運輸機構】				
										駅舎の整備【鉄道・運輸機構】		

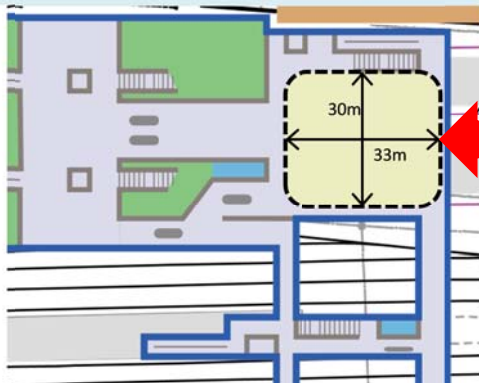
KPI

駅舎内におけるたまり空間の延床面積

(現状値：なし) → (目標値：2030 年度末 1,000 m²)

たまり空間は修学旅行や緊急時に対応可能なスペースを確保

- ・ピーク時に1000人が滞留可能な1000m² (30m×33m) を確保



長万部駅新幹線
たまり空間
イメージ図

長万部新幹線駅内のたまり空間イメージ (再掲)

【 I-5 ニーズに合わせた二次交通サービスの充実 】

▶ 施策①：長万部駅を起点とした広域エリアの観光拠点等を結ぶバスアクセス網及びタクシーサービスの提供

→広域エリアの交通拠点として長万部駅の拠点性を向上させるための多様な公共交通サービスを確保する。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・洞爺や登別へのシャトルバスや送迎バスなど観光需要が多いエリア特性に配慮したアクセス性の確保
- ・南後志や檜山北部方面への乗合タクシーやデマンドバスなど需要条件に配慮した持続可能な公共交通の検討

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
長万部駅利用促進に向けた広域的な連携組織の可能性・方向性を検討【町、観光協会、近隣自治体】													
				広域的な連携組織を核とした二次交通サービスのあり方検討【広域的な連携組織、交通事業者】									
										開業に向けた試行運転【交通事業者】			
										開業後の利用状況を踏まえた運行方法の改善【交通事業者】			

KPI

長万部駅を発着する定期運行バスの便数

(現状値：2017年度 13便(函館方面4便,瀬棚方面7便,寿都方面2便))

→ (目標値：2030年度末 現状以上)



推進会議の検討を踏まえた東口の駅前広場の整備イメージ (再掲)

▶ **施策②：広域エリアを周遊するためのレンタカー機能の誘致**

→長万部駅の拠点性の向上に向け、個人やグループの観光客、ビジネス客が広域エリアを周遊するためのレンタカー機能を誘致する。

— 議論を踏まえた方向性 —

- ・ 開業時の長万部駅の拠点性向上に向けたレンタカー事業者の誘致促進
- ・ 東口周辺においてレンタカー事業者の誘致に向けた用地の確保とともに、レンタカー利用者の利便性を確保
- ・ まちの駅と一体となったレンタカー利用者の受付機能の検討

— スケジュール —

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
							レンタカー事業者誘致に向けた 用地の検討・確保【町】						
										レンタカー事業者の誘致 【町、レンタカー事業者】			
										近隣エリア等と連携したレンタカーの 利用拡大に向けた取組みの推進 【広域的な連携組織、町、レンタカー事業者】			

KPI

長万部駅周辺におけるレンタカー事業者数

(現状値：なし) → (目標値：2030 年度末 3 事業所)

【事例】 東北新幹線延伸に合わせ駅構内に設置されたレンタカー窓口

(左・いわて沼宮内駅、右・二戸駅)



▶ 施策③：長万部を含む広域エリアで利用可能なエリアフリーパスの提供

→長万部駅勢圏における既存の路線バスや鉄道等の既存の交通網を活用しながら新たな需要層にも対応した利便性の高いサービス（エリアフリーパスなど）を提供する。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・既存の交通網を活用した新幹線利用者の利便性向上を図るためのエリアフリーパスの検討
- ・広域エリアの自治体や関連する交通事業者が一体となった検討体制の構築
- ・公共交通とエリア内の観光施設の一体利用を促進する工夫（クーポン等）や外国人観光客など公共交通の利用が見込まれる需要層への効果的なPRの展開

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
長万部駅利用促進に向けた広域的な連携組織の可能性・方向性を検討【町、観光協会、近隣自治体】													
				広域的な連携組織を核とした二次交通サービスのあり方検討【広域的な連携組織、交通事業者】									
											地域公共交通網形成計画の策定【町】		
											開業に向けた試行【交通事業者】		
											開業後の利用状況を踏まえたサービス内容の改善【交通事業者】		

KPI

長万部町が含まれるエリアフリーパスの利用者数

(現状値：2017年度 なし) → (目標値：2031年度 1,000人)

【事例】

青森県八戸市「八戸えんじょいカード」

(<http://www.city.hachinohe.aomori.jp/enjoy/index.html>)

青森県八戸市では、新幹線の停車駅「八戸駅」のある八戸市内の観光の利便性を向上させるために、八戸市内のJR・市営バス、南部バス、るるっぶ八戸が1日乗り放題となるフリーパスを作成しています。



八戸えんじょいカード案内図

【 I-6 二次交通網構築等に関する広域的な協議の場づくり 】

▶ 施策：町および広域エリアでの二次交通網の構築等に向けた協議等を行う場の形成

→長万部町を事務局とし、檜山北部・南後志・西胆振等の広域エリアの自治体や交通事業者が一体となった二次交通網の構築などの検討・協議を行う場を形成する。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・広域エリアの自治体や関連する交通事業者が一体となった検討体制の構築
- ・広域的な二次交通網や広域的な観光振興のあり方の検討
- ・広域的な観光振興を推進する新たな組織づくり（DMO等）の検討

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
長万部駅利用促進に向けた 広域的な連携組織の可能性・方向性を検討 【町、観光協会、近隣自治体】													
				広域的な連携組織を核とした 二次交通の構築に向けた協議の推進 【広域的な連携組織、交通事業者】									
											開業後の利用促進に向けた 取組みの展開 【広域的な連携組織、交通事業者】		

KPI

長万部駅の駅勢圏（長万部町、北部檜山、南後志、西胆振）の観光入込客数

（現状値：2016年度 14,008千人）→（目標値：2030年度 20,000千人）

【 I-7 高架下空間の有効活用 】

▶ 施策：高架下空間の有効活用の促進

→長万部駅周辺における高架構造により生じる高架下空間の有効活用方法を検討する。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・長万部駅の特徴である「高高架」という構造を踏まえ、降雪の影響の少なさなど高架下の特性を活かした空間を有効活用
- ・高架下となる西口においては、鉄道村など文化施設としての機能を検討

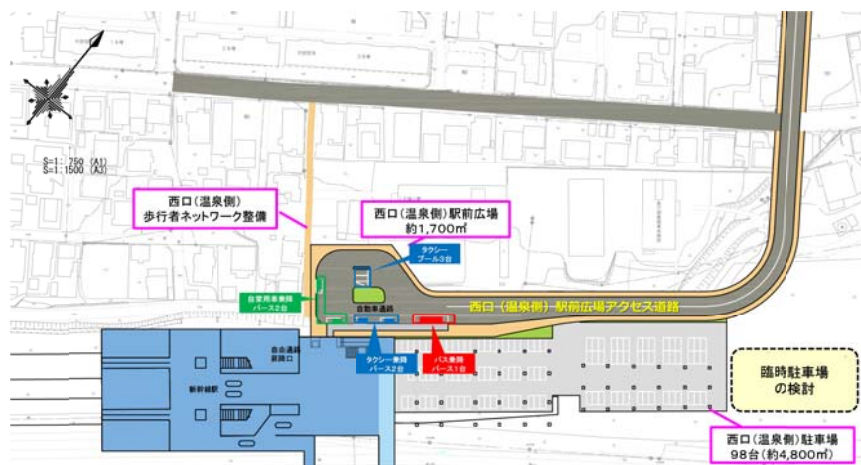
－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
都市マスタープラン及び立地適正化計画の策定による位置付けの検討【町】												
関係機関協議【町、JR及び鉄道・運輸機構】												
高架下空間の有効活用に向けた方針検討【町、民間事業者】												
具体的な利用方法の決定【町、民間事業者】												
高架下の利用に係る詳細設計【町、民間事業者】												
高架下空間を活用した駐車場等の整備【町、民間事業者】												

KPI

高架下空間を活用した利便施設の面積

(現状値：なし) → (目標値：2030年度末 1,000 m²以上)



推進会議の検討を踏まえた西口の高架下空間の整備イメージ（再掲）

Ⅱ. まちなみ形成分野

【 Ⅱ-1 中心市街地における商業機能の確保 】

▶ 施策①：長万部駅周辺における民間を主体とした商業空間の検討

→長万部の顔として新幹線駅の開業によって生じる町内消費を受け止める商業機能を確保する。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・新幹線駅開業によって増加する消費を駅周辺だけではなく、市街地全体・町内全体に波及させる取組みの推進
- ・開業時までの新たな担い手の確保も含めた商業機能の確保
- ・貸店舗など本町通の拡幅に伴う商店の建替えや移転などによって生じる事業リスクを緩和する仕組みづくりの検討
- ・本町通の拡幅・建替においては、駅周辺エリアへの商業機能の集約も検討

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
商店街の担い手に対する意向の把握【商工会、商工事業者】												
都市マスタープラン及び立地適正化計画の策定による位置付け(町内の商業機能を担うエリア)の検討【町】												
関係機関協議【町、商工会、商工事業者】												
都市計画決定【町】												
本町通における商業機能の確保に向けた戦略づくり【町、商工会、商店街】												
本町通の拡幅に伴う補償費等の算定【町(道)】												
商店街沿道の店舗や住宅の建替え【本町通沿道の事業者等】												
まちの駅と一体となった商業空間の形成【町、商工事業者】												

KPI

長万部町の人口1人あたり小売販売額

(現状値：2016年 749,708円/人) → (目標値：2031年 現状値以上)



【事例】木古内町駅前通整備事業による商業空間の整備

▶ 施策②：長万部駅周辺における長万部の顔となる商業機能を支える基盤整備

→新幹線長万部駅の乗降客に対して長万部の顔となる空間の整備を行う。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・新幹線開業によって増加する長万部駅の利用客を市街地全体に周遊させる工夫
- ・空き地が出た所は緑化やベンチを置くなど、賑わいを生み出す工夫
- ・本町通の拡幅・建替においては、駅周辺エリアへの商業機能の集約も検討

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
商店街の担い手に対する意向の把握【商工会、商工事業者】												
都市マスタープラン及び立地適正化計画の策定による位置付け(町内の商業機能を担う街路空間)の検討【町】												
関係機関協議【町、商工会、商工事業者】												
			都市計画決定【町】									
本町通における商業機能の確保に向けた戦略づくり【町、商工会、商店街】												
			本町通の拡幅に向けた測量【町(道)】									
						本町通の拡幅に向けた詳細設計【町(道)】						
									本町通の拡幅に向けた用地買収【町(道)】			
									本町通の拡幅整備事業【町(道)】			

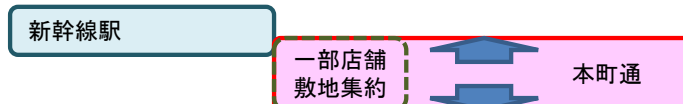
KPI

長万部町の人口1人あたり小売販売額

(現状値：2016年 749,708円/人) → (目標値：2031年 現状値以上)

拡幅・建替&一部店舗敷地集約型

- ・長万部の顔としてゆとりある歩道空間の形成が可能
- ・新幹線駅の集客力を波及させることが可能
- ・集約用敷地の買収や意見調整などコストや労力が必要になる
- ・駅から離れたエリアは空き地が目立つ空間になる可能性あり



- 本町通の歩道部分を拡幅し、希望する店舗等の駅周辺への移転を検討
- 対象となる区間については建替後のデザインや看板の設置などについてまちづくり協定を締結
- 店舗の移転等に伴い生じる空き地については起業希望者の誘致なども検討

推進会議の検討を踏まえた本町通り整備の方向性

【 II-2 交通拠点「まちの駅」の整備 】

▶ 施策：長万部駅周辺に特産品販売や飲食機能、観光情報提供機能をもたせた交流拠点「まちの駅」の整備

→新幹線長万部駅利用客の消費を受け止める場づくりを行う。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・ 商店街方面との連携を考え、まちの駅は東口の駅前広場の北側の位置を前提
- ・ 駅利用者だけでなく、近隣の住民や沿道利用者の利用を想定
- ・ まちの駅だけで全ての機能を揃えるのではなく、まちの駅の利用者が市街地全体に回遊し
たくなるような仕組みを構築
- ・ 広域的エリアの観光情報発信や特産品も購入できる機能を確保
- ・ 駐車場からまちの駅までの動線上に、まちの駅の利用者が楽しめる賑わいを創出
- ・ まちの駅およびその周辺において、鉄道村など文化施設としての機能を検討

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030								
都市マスタープラン及び立地適正化計画の策定による位置付け(町内の商業機能を担う街路空間)の検討【町】																				
関係機関協議【町、観光協会、商工事業者】																				
			都市計画決定【町】																	
				地権者との協議【町】																
						基本構想【町】														
							基本計画及び用地の確定【町】													
								運営計画の検討・決定【町】												
									基本設計【町】											
										実施設計【町】										
											用地補償及び地権者の移転先確保【町】									
												施設整備【町】								
											運営組織の設立・スタッフ募集【町】									
												開業【町】								

KPI

まちの駅施設の年間利用者数 (現状値：なし) → (目標値：2030年度 30万人)

駅近接型

- ・ まちの駅まで引き込むことで、中心市街地への人の流れが期待される
- ・ 車移動の観光客や地域住民の利用も期待される
- ・ 駅から距離があることで、特に乗継客の利用は低下する可能性がある

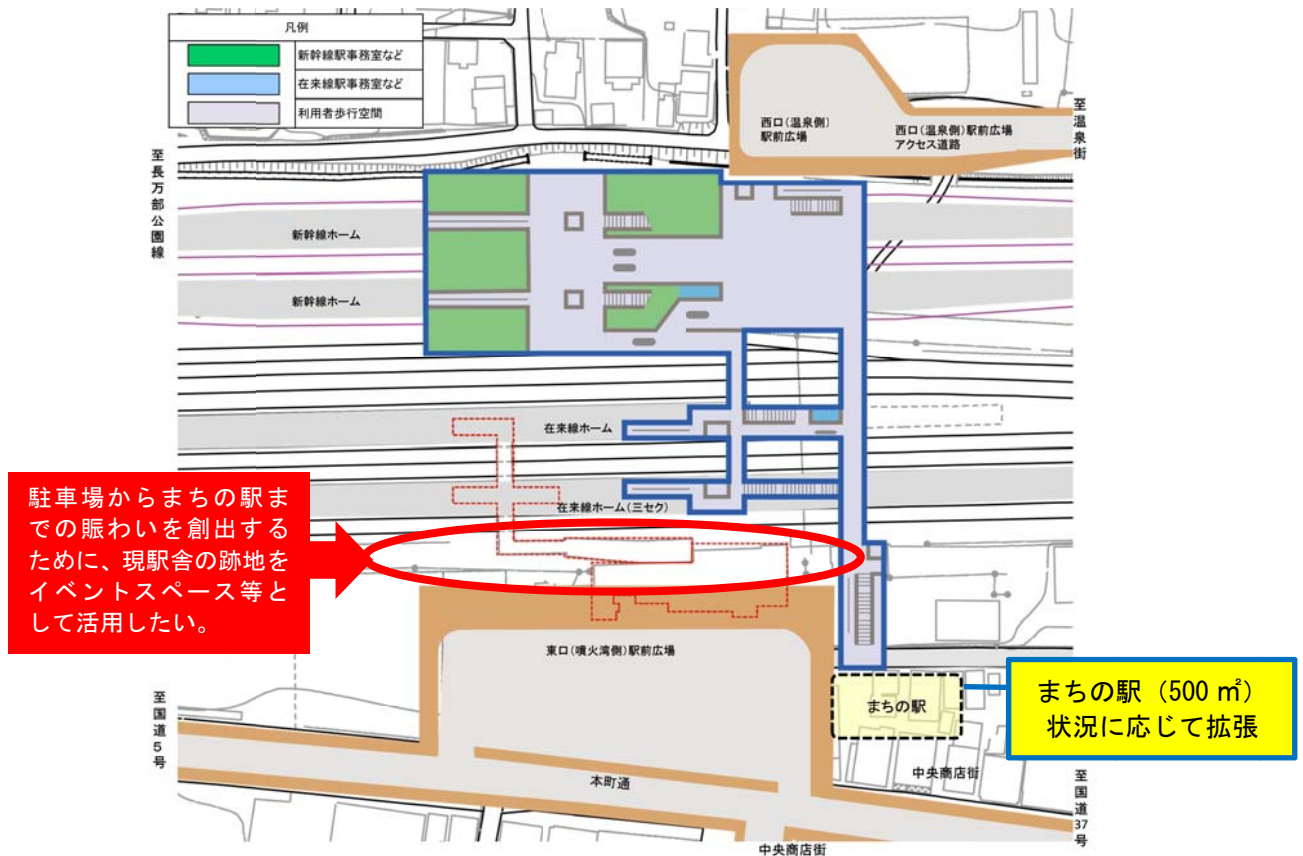
新幹線駅

まちの駅

中心市街地

- 東側の駅前広場と商店街に隣接した位置
- 新幹線の乗換客の取り込みを目指すとともに、地域住民や通過交通客の取り込みも想定
- 商店街の導入部に位置するため、商店街方面に人の流れを生み出す可能性も生じる

推進会議の検討を踏まえた「まちの駅」整備の方向性



推進会議の検討を踏まえた「まちの駅」設置イメージ

■木古内町への視察研修（2016年度）

- ・推進会議のメンバーを中心として、先進事例である木古内町の「道の駅みそぎの郷きこない」や駅周辺整備の視察研修を行いました。

▽開催日時

2016年12月5日（月）

▽参加者

18名

▽主な内容

- 道の駅みそぎの郷きこないの視察研修
- 木古内町の取組み説明及び意見交換
- まち歩き体験
- 新幹線木古内駅及び駅周辺の整備内容の説明及び施設見学



■鹿部町及び厚沢部町等への視察研修（2017年度）

- ・推進会議のメンバーを中心として、鹿部町の「道の駅しかべ間歌泉公園」や厚沢部町の「道の駅あっさぶ」の視察研修を行いました。

▽開催日時

2017年10月4日（水）

▽参加者

13名

▽主な内容

- 道の駅つどーる・プラザ・さわら（見学）
- 道の駅しかべ間歌泉公園（説明、昼食、見学）
- 新函館北斗駅（見学）
- 道の駅あっさぶ（説明、見学）



まちの駅に関する視察研修の概要（2016年・2017年）

【 II-3 地域資源を活用した特産品の開発 】

▶ 施策：長万部町内の地域資源を活用した特産品の開発

→まちの駅や駅構内で販売する地域資源を活用した新たな特産品の開発を行う。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・他の地域にない長万部独自の食資源（黒ホッキなど）や食べ方の活用
- ・温泉饅頭や懐かしの食堂の味など町内の伝統や歴史を活かした特産品やメニュー開発
- ・新幹線駅の開業でどのような顧客層が増加するのかを意識した特産品づくり

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
持続的な特産品の開発に向けた検討組織づくり【町、関連事業者】												
販売・PR手法、パッケージ検討など具体的な特産品づくりに向けた支援制度の創設【町】												
			検討組織を主体とした特産品の開発・改良【関連事業者】									

KPI

まちの駅施設の年間販売額 （現状値：なし）→（目標値：2031年度 3億円）

■特産品の開発に係る消費者グループインタビュー調査（2017年度）の概要

・新幹線長万部駅開業により増加することが予想される来訪客に対し、長万部の地域資源を活用した食の提供を目指し、地域の食資源（食材・食文化）を活用した新たなメニューの開発・改善に向けた市場調査を実施しました。

▽開催日時

2018年2月6日（火）

▽調査対象

○札幌在住の消費者（40～60代の女性）5名

▽調査対象メニュー

○黒ホッキ定食（ホッキ飯、刺身、ホッキフライ）

○ホタテ丸ごと刺身（貝柱、ひも）

○フキの身欠きニシン炊き

○カレイ類の押し寿司

○長万部産ジェラート



【 II-4 長万部のシンボルとなる駅舎デザインの検討 】

▶ 施策：地域の象徴となる駅舎デザインの検討

→ 町民の思いを込めた愛される駅舎デザインづくりを行う。

— 議論を踏まえた方向性 —

- ・ 海の眺望を活かした駅舎デザイン
- ・ 防災機能等、必要な機能の確保
- ・ 長万部高校や東京理科大学長万部キャンパスの学生の意見を反映

— スケジュール —

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
			長万部駅デザイン検討委員会（仮）の創設・運営【町、高校生、東京理科大生】									
						具体的なデザインコンセプトの要望 【町から鉄道・運輸機構へ】						
								基本設計・実施設計【鉄道・運輸機構】				
							デザイン素案の受け取り・意見募集・推薦案回答【町、町民】					
										推薦案を反映した駅舎の整備 【鉄道・運輸機構】		

KPI

長万部駅デザイン検討委員会（仮）へ高校生及び東京理科大生の延べ参加者数

（現状値：なし）→（目標値：2024～27年度 20人以上）



まちづくり推進会議で発表する長万部高校生（左・2016年度、右・2017年度）

長万部高校の高校生が考える「長万部らしさ」のキーワード

かにめし、まんべくん、毛がにまつり、漁業（秋鮭など）
温泉、中学校のグラウンド、道の駅（黒松内）、館先生

長万部高校の高校生が考える「長万部に立ち寄りたくなるような『まち』」

A グループ

- ・ショッピングモールがある町
（庭にまんべ畑を設置）
- ・ホテル
- ・日本一海に一番近い新幹線
- ・日本一太っているキャラクター
- ・まんべ畑
- ・ゲームセンター
- ・海をきれいにする

B グループ

- ・星がよく見える町
- ・デパートがある町
- ・ホテルがある町
- ・きれいなトイレがある町
- ・散歩ができる公園

C グループ

- ・楽しく盛り上がる「まち」
- ・人がたくさん集う「まち」
- ・日帰りで楽しめる「まち」
（温泉、アスレチック、動物園、
水族館、遊園地など）

D グループ

- ・美男美女がいる町！！
- ・アニメの彫刻
- ・駅前にショッピングモール
- ・回転寿司チェーン店
- ・アスレチック公園
- ・ホテル（たくさん）
- ・道の整備
- ・パン屋

E グループ

- ・移動販売（ワゴンショップ）がある公園
- ・安くておいしい飲食店
- ・展望台がある
- ・プラネタリウムがある
- ・レンタルタブレット店（特に電子書籍）

F グループ

- ・海で結婚する
- ・駅でイベントを行う
（ハロウィン、クリスマス等）
- ・ショッピングセンター
- ・ホテル
（あまり高くなく、ほどよく遊べる）



長万部高校でのまちづくり特別授業（2017年度）

東京理科大学が考える『長万部自慢』のキーワード

【 長万部の自然・環境など（活かすべき素材） 】

- ・「海」と「山」
- ・小・中・高・大が全てそろっている。
- ・二股ラジウム温泉の全国PR。ラジウム温泉のドーム。
- ・夜景・星→360度さえぎるものが無く見える。
- ・山々の紅葉、雪景色。冷涼な気候。
- ・広い土地～高台に登るとまちが見渡せる。インスタ映え。本州の人が来ると、夢が味わえる。
- ・見渡しのいい噴火湾～すばらしい景色を利用してカップルの聖地にする。
- ・高い建物が無いからこそ、都会では味わえない「圧迫感の無い環境」がある。ただ、8階相当の高架した建物を長万部のランドマークとするのは良いと思う。
- ・北海道の植物の緑は、本州の緑とは違い、深く鮮やかな色で驚いた。
- ・使える自然が多くあるまちは、非常に憧れる。

【 駅周辺・街並みの整備 】

- ・シンボル→一点に集中、コスト削減
- ・駅での宣伝（案内・PR）＝あんかけ焼きそばのお店・川瀬チーズ工房など駅前でマップ表示。
- ・駅前に足湯を設置してはどうか。
- ・福井駅みたいな駅（福井駅の駅前はきれい。長万部駅にもシンボルを）。
- ・街並みはきれいにするよりは、そのままがいいと思う。
- ・海を見ながらくつろげるスペースがほしい。
- ・本町通りの景観は、噴火湾側＝青をメインにした街並み、毛がに・ホタテなど。温泉側＝緑・オレンジをメインに、温泉イメージ。
- ・きれいな街並みよりも温泉街のような、古くからあるような雰囲気を残してほしい。
- ・案内板が少ない。飲食店がわからない。
- ・トンネルじゃない区間（明かり区間）に花。

【 交通・情報発信 】

- ・北海道新幹線ができれば、バス・列車の本数をできるだけ多くする。（赤字にならない程度）
- ・観光地（二股ラジウム温泉など）にいけるようにする。
- ・交通の整備→長万部に下車してからの移動手段が必要。
- ・もっと「観光向けの自然」をアピールする。海にしる、山にしる、「観光映え」するようなアピールを考える。
- ・住民の方が優しい→安全な町としてアピール。
- ・土地があることを利用して、企業・大学の研究機関としての町にする。
- ・まち自慢をSNSや広告で全国に広める。

【 移住・定住施策 】

- ・新幹線による時間短縮により、東京近郊より札幌・函館への新幹線通勤・通学などは便利となる。
- ・本州より冷涼な気候とすばらしい海・山などの環境を活かし、別荘地で全国に売り込む。
- ・函館・札幌への所要時間短縮により長万部町はベッドタウンを目指せるのではないかな。

Ⅲ. 観光振興分野

【 Ⅲ-1 市場環境に対応した施設の多様化 】

▶ 施策①：施設づくり（既存宿泊施設の改修・新設等）の支援

→新幹線によって増加する顧客層を取り込むための既存宿泊施設の改修または新設を支援する。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・現在の温泉街における宿泊施設の更新の促進
- ・新幹線を利用して来訪する本州方面からの宿泊客や外国人旅行者など新たな観光需要の取り込み
- ・新幹線の駅に近い温泉街という立地条件の活用
- ・様々なニーズに対応した宿泊施設の整備

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
既存事業者の意向把握・制度の方針検討【町、温泉組合】												
	施設づくりを支援する制度の枠組みの決定【町、金融機関、温泉組合】											
				既存施設の改修・新設などに対する支援制度の運用開始【町、金融機関、温泉組合、宿泊事業者】								

KPI

長万部町内の年間延宿泊者数

(現状値：2016年度 30.1千人) → (目標値：2031年度 50千人)



長万部温泉街のまちなみ

▶ 施策②：長万部温泉街との連携による町内外からの新規参入の促進

→長万部町内の未利用資源（源泉や土地等）の活用を行う町内外の新規参入を促進する。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・長万部温泉街などと連携し、町内外から新たな宿泊事業者を誘致
- ・活用可能な源泉資源の確保及び有効利用方策の検討
- ・町内外からの事業者の誘致にあたっては、既存施設と競合しないような事業者を優先的に誘致

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
既存事業者の意向把握【町、温泉組合】												
		利用可能な敷地および源泉の把握・調整【町、温泉組合】										
		新規参入の促進に向けた条件整理【町、温泉組合】										
			新規参入者の誘致【町、温泉組合】									

KPI

長万部町内の外国人延宿泊者数 （2016年度 なし）→（2031年度 10千人）

【事例】 北海道下川町「シモカワベアーズ」

(<http://shimokawa-life.info/shimokawabears/entry/>)

北海道下川町では、地域と結び付きながら、やりたいことに取り組む人々を「シモカワベアーズ」と名付け、地域の暮らし方に共感して移住し、起業や事業承継を担ってもらえる人材の呼び込みに取り組んでいます。



シモカワベアーズへの公募の流れ（起業の場合）

【 Ⅲ－２ 食の活用による需要の通年化 】

▶ 施策①：長万部が育んだ素材・調理法の磨き上げ

→これまで長万部町民が活用してきた食材や調理法を見つめ直し、地域に根付いた食資源や食を活かした長万部の味（可能であれば観光動機となり得る高級食材）を磨き上げる。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・長万部町民が普段食べている素材や調理法を来訪者の視点で再発見
- ・町民が食べてないものを名物として出すのではなく、息の長い取り組みにするために町民が育ててきた地元の味を提供
- ・食を観光資源にしていくために、「それを食べるにわざわざ長万部に行く価値がある」ような希少性のある食材の抽出

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
核となる長万部町内の素材・調理法の抽出 【推進会議、飲食・宿泊事業者、観光協会】												
				試行や改善を繰り返しながら食資源の磨き上げ 【飲食・宿泊事業者】								

KPI

長万部町内の宿泊業及び飲食業の従業者数 （2015年 183人） → （2031年度 300人）

■おしゃまんべマルシェの取組み（2016年度）

- ・ 試行的な地域の特産品販売の取組みを通じて、新幹線開業後の長万部周辺の物産販売機能向上の検討（新たな取組みに向けた仕組みづくり等）につなげることを目指し、長万部総合文化祭内でブースを設定し、推進会議まちなみ部会のメンバーが準備した「ホッキ飯」「漬物」の2種類を提供し、試食体験者にアンケートを実施しました。

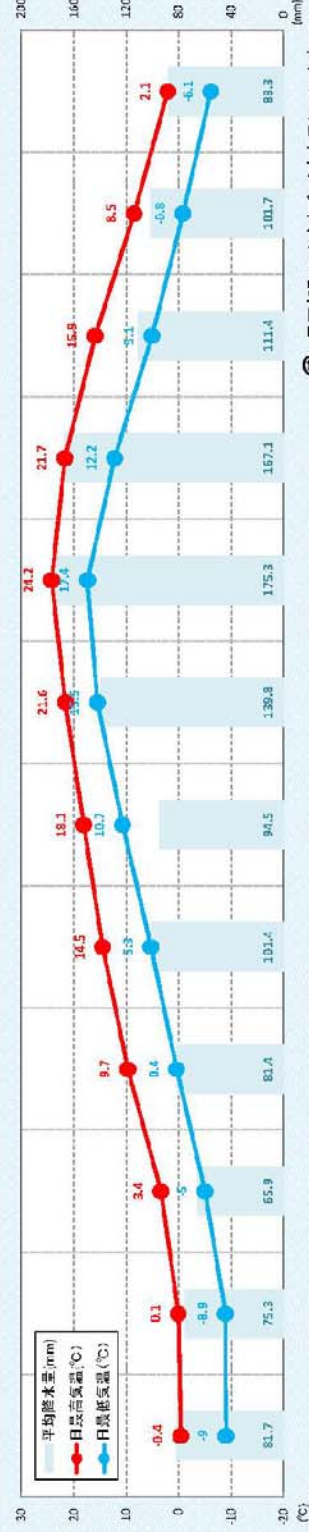


■長万部版フェノロジーカレンダーづくり（2017年度）

- ・ 「フェノロジーカレンダー」とは、自然事象や文化事象などの地域資源をカレンダーの形で一覧できるように整理したもので、地域における季節ごとの自然環境、食、産物、年中行事などを把握することができるものです。
- ・ 推進会議では、アドバイザーとして北海道教育大学の池ノ上先生を招聘し、「食」に関する分野を中心にワークショップ形式で長万部版フェノロジーカレンダーづくりに取組みました。
- ・ 作成した長万部フェノロジーカレンダーは、次ページに掲載します。

長万部 フェノロジ カレンダー

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12



⑩ 長万部町での主な食べ方を示しています。

貝類	ホタテ ホッキ・黒ホッキ マサガイ	ホタテ ⑩ かにめし、ホタテご飯、ホタテやホタテの卵の刺身	ホタテ ⑩ 刺身、フライ、ホッキ飯、カレー	ホタテ
カレイ	ホッキ	ホッキ	ホッキ	ホタテ
ヒラメ類	ホッキ	ホッキ	ホッキ	ホタテ
サケ類	ホッキ	ホッキ	ホッキ	ホタテ
カニ類	ホッキ	ホッキ	ホッキ	ホタテ
その他	ホッキ	ホッキ	ホッキ	ホタテ

野菜	たまねぎ	アスパラ	じゃがいも(原産)	芋ヨウジャニンニク	とうもろこし	きゅうり	大根	いちご	牛乳
山菜	たまねぎ <td>アスパラ <td>じゃがいも(原産) <td>芋ヨウジャニンニク <td>とうもろこし <td>きゅうり <td>大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td></td></td></td></td></td></td>	アスパラ <td>じゃがいも(原産) <td>芋ヨウジャニンニク <td>とうもろこし <td>きゅうり <td>大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td></td></td></td></td></td>	じゃがいも(原産) <td>芋ヨウジャニンニク <td>とうもろこし <td>きゅうり <td>大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td></td></td></td></td>	芋ヨウジャニンニク <td>とうもろこし <td>きゅうり <td>大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td></td></td></td>	とうもろこし <td>きゅうり <td>大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td></td></td>	きゅうり <td>大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td></td>	大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td>	いちご <td>牛乳 </td>	牛乳
きのこ	たまねぎ <td>アスパラ <td>じゃがいも(原産) <td>芋ヨウジャニンニク <td>とうもろこし <td>きゅうり <td>大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td></td></td></td></td></td></td>	アスパラ <td>じゃがいも(原産) <td>芋ヨウジャニンニク <td>とうもろこし <td>きゅうり <td>大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td></td></td></td></td></td>	じゃがいも(原産) <td>芋ヨウジャニンニク <td>とうもろこし <td>きゅうり <td>大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td></td></td></td></td>	芋ヨウジャニンニク <td>とうもろこし <td>きゅうり <td>大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td></td></td></td>	とうもろこし <td>きゅうり <td>大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td></td></td>	きゅうり <td>大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td></td>	大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td>	いちご <td>牛乳 </td>	牛乳
木の葉	たまねぎ <td>アスパラ <td>じゃがいも(原産) <td>芋ヨウジャニンニク <td>とうもろこし <td>きゅうり <td>大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td></td></td></td></td></td></td>	アスパラ <td>じゃがいも(原産) <td>芋ヨウジャニンニク <td>とうもろこし <td>きゅうり <td>大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td></td></td></td></td></td>	じゃがいも(原産) <td>芋ヨウジャニンニク <td>とうもろこし <td>きゅうり <td>大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td></td></td></td></td>	芋ヨウジャニンニク <td>とうもろこし <td>きゅうり <td>大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td></td></td></td>	とうもろこし <td>きゅうり <td>大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td></td></td>	きゅうり <td>大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td></td>	大根 <td>いちご <td>牛乳 </td></td>	いちご <td>牛乳 </td>	牛乳

漬物	わらび	ふき	たらの芽	うど	細曲がり竹	チラタケ(神戶産)	しいたけ	ラオウキノコ	山ぶどう	カラント	ココワ(サルナシ)	ハスカップ	ブルーベリー	グースベリー	栗
保存食	わらび	ふき	たらの芽	うど	細曲がり竹	チラタケ(神戶産)	しいたけ	ラオウキノコ	山ぶどう	カラント	ココワ(サルナシ)	ハスカップ	ブルーベリー	グースベリー	栗

郷土料理	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ
郷土料理	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ	ホタテ

■ 年中行事と行事食

■ 正月

■ 植栽祭

■ 運動会

■ 衛生神社例大祭

■ ポチポチ村秋祭

■ 冬至

クジラ汁やけんちゃん汁を食べる。

地域の高級魚「オオスケ」は獲りかたや調理法で食べ方も異なる。

おしるこのかぼちゃバージョンかぼちの餅団子やしも餅を入れたものもある。

▶ 施策②：広域エリア（南後志や檜山北部、西胆振等）の食材の発掘

→新幹線で訪れる観光客は、長万部町周辺の地域も含めた広域的な地域イメージを持って来訪することが予想されるため、広域的な視点に立った上で食資源を発掘する。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・ 食材や特産品については、長万部町内だけでなく広域的な視点で幅広く品揃え
- ・ 寿都の牡蠣や黒松内のチーズなど広域的なエリアで考えると特産品も多く、広域的な視点で旅行動機となりうる食資源を抽出
- ・ 町内の宿泊事業者や飲食事業者との連携により一体的な取組みを展開

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
長万部駅利用促進に向けた広域的な連携組織の可能性・方向性を検討 【町、観光協会、近隣自治体】												
						広域的な連携組織が主体となった食資源の抽出・磨き上げ 【町、観光協会、広域的な連携組織】						
								開業を見据えた広域的な食資源の磨き上げ・PR 【広域的な連携組織、観光協会、宿泊事業者、飲食事業者】				

KPI

長万部駅の利用促進に向けた広域的な組織の検討会議開催数

(2017年度 0回) → (2030年度 5回)

長万部駅の周辺には、チーズや豚肉加工などが盛んな黒松内町や牡蠣が有名な寿都町などバラエティに富んだ食資源を持ったエリアが広がっています（写真は、まちづくり推進会議による2016年度のモニターツアーの昼食（黒松内町のチーズフォンデュ）の様子）。



▶ 施策③：閑散期における町内・広域エリアでの旬の食材を活用したキャンペーンの展開

→夏季に集中している観光入込の需要を通年化すべく、長万部町内および南後志や檜山北部、西胆振エリア等の広域エリアの旬の素材を活用したキャンペーンを展開する。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・長万部では年間を通して旬の素材が獲れるので、閑散期の観光資源として「この時期・ここだけ」でしか食べられない地元の味の活用
- ・観光を産業として発展させるために経営効率や通年雇用の面から閑散期対策を推進

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
						広域的な連携組織が中心となった 閑散期対策の検討 【広域的な連携組織】		食資源を活用した キャンペーンの実施時期・手法の決定 【広域的な連携組織】		食資源を活用した キャンペーンの試行・改善 【広域的な連携組織】		食資源を活用した キャンペーンの本格展開 【広域的な連携組織】	

KPI

長万部町内におけるピーク月とオフピーク月の宿泊者数の比率

(2017年度 4.3倍) → (2031年度 1.4倍以内)

【事例】

青森県風間浦村「布海苔採り体験ツアー」

(<https://gururin-shimokita.com/>)

青森県風間浦村では、冬の風物詩でもある「布海苔採り」を体験できるツアーを行っています。布海苔採りを終えたあと、風間浦村の特産の鮎鱈汁と下風呂温泉で冷えた体を温め、新鮮な海の幸を堪能することができます。



【 Ⅲ－３ 新幹線開業に向けたブランド力の強化 】

▶ 施策①：外国人観光客の取り込みへ向けた宿泊施設等の対応力の強化

→今後更なる増加が予想される外国人観光客の需要を取り込んでいくために、町内の事業者の外国人観光客への対応力の強化を図る。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・ 今後の市場動向を考慮し、今後増加が期待できる外国人観光客への対応力を強化
- ・ 事業者単体での取組みではなく、地域が一体となって対応力を強化
- ・ 接客の視点だけでなく、プロモーションや予約、決済方法など外国人の旅行スタイルに合わせた対応力の強化

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	
町内の事業者を対象とした外国人観光客への接客セミナーの開催【町、観光協会】			多言語対応に向けたツール（指さし会話集等）の整備【宿泊・飲食事業者、観光協会】			プロモーションツール（WEBサイト・SNSサイト等）の整備【宿泊・飲食事業者、観光協会】			施設内の多言語化の整備【宿泊・飲食事業者、観光協会】			外国人向けプロモーションツールの運営・改善【観光協会、町、各宿泊・飲食事業者】	

KPI

長万部町内の外国人延宿泊者数 （2016年度 なし）→（2031年度 10千人）

【事例】

木古内町における「指さし会話ツールの作成」

(<http://www.town.kikonai.hokkaido.jp/>)

木古内町では、北海道新幹線木古内駅開業に合わせ、町内の宿泊事業者や交通事業者、飲食事業者向けに、外国人の接客を支援する木古内版「指さし会話ツール」を作成しています。



▶ 施策②：長万部の資源を活用した観光プログラムの開発

→滞在拠点としての長万部のポテンシャルを高めるために、長万部駅または長万部温泉を拠点とし、新幹線の乗り継ぎ時間を使って楽しめる長万部の地域資源を活用した観光プログラム（2時間程度を想定）を開発する。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・新幹線を利用する人が、長万部駅の接続時間を利用して楽しめるプログラム（2時間程度）の開発
- ・長万部独自の資源（鉄道の歴史、海との近接性、まちの歴史、噴火湾の景観など）を組み込んだ独自性のあるプログラムの開発
- ・ただプログラムをつくるのではなく、ガイドの育成や料金、予約方法など長期的な視点で自律的な運営が可能になるよう検討
- ・黒松内町や豊浦町との連携など長万部駅を起点とした広域的な視点での観光プログラムの開発

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
長万部の資源を活用した観光プログラムの開発【観光協会】												
			イベント形式による観光プログラムの試行【町、観光協会】									
			有望な観光プログラムの抽出【観光協会】									
			年間を通じた観光プログラムの試行・改善【観光協会】									
							自律的な運営による本格展開【観光協会等】					

KPI

長万部駅を起点とする観光プログラムの年間利用者数

(2017年度 0人) → (2031年度 1,000人)

■黒松内町へのモニターツアー（2016年度）

・推進会議のメンバーを中心として、黒松内町の取組みを学び、「ブナ林ガイドウォーク」のガイドツアーを体験しました。

▽開催日時

2016年11月15日（火）

▽参加者

20名（ガイドウォークは18名）

▽内容

- ブナ林ガイドウォーク
- ハム・ソーセージ&チーズ加工工程の見学
- 黒松内町ブナ林北限の里ツーリズムの取組み紹介及び意見交換
- 道の駅トワ・ヴェールⅡ見学



■豊浦町へのモニターツアー（2017年度）

・推進会議のメンバーを中心として、豊浦町の取組みを学び、小幌駅周辺のガイドツアーなどを体験しました。

▽開催日時

2017年11月20日（月）

▽参加者

22名（小幌駅ツアーは21名）

▽内容

- 豊浦町担当者を招聘した意見交換会
- 静狩駅周辺ガイド体験
- 豊浦町インディアン水車見学
- 道の駅「とようら」見学
- 小幌駅周辺ガイド体験



広域的な視点での観光プログラムの参加・視察の取組み（2016～17年度）

▶ 施策③：温泉街全体のブランド力を高めるようなシンボリックな空間づくり

→長万部町の温泉街と新幹線駅が至近距離に立地する条件を活かし、新幹線からの眺望などにも配慮しながら温泉街全体のブランドイメージを高められるようなシンボリックな空間づくりを行う。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・長万部駅のホームに降り立った人が行ってみたいと思えるような、長万部温泉の認知度の向上・PRに貢献する空間づくり
- ・足湯など温泉街全体のブランド価値を高めるよう視覚的に訴える空間づくり
- ・維持・運営コストの効率化にも留意して検討

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
				シンボル空間づくりの方針決定【町、温泉組合】								
						用地買収及び設計【町、温泉組合】						
								シンボル空間の整備（施工）【町、温泉組合】				
										シンボル空間の維持・運営【指定管理者等運営主体】		

KPI

長万部町の入湯税収入額

(2014年度 4,039千円) → (2031年度 10,000千円)

【事例】北海道函館市「湯の川温泉 足湯」

(<https://www.hakobura.jp/>)

湯の川温泉街のシンボル形成を目的として、函館湯の川温泉旅館組合や地元の町会、商店街などから構成される「足湯整備促進期成会」を発足させ、市の補助金や同会で集めた寄付金を元に足湯を整備しています。



【 Ⅲ－４ 地域連携DMOの実現 】

▶ 施策①：観光協会を核とした町内および広域的な視点での観光振興を推進する組織づくり

→観光協会を核としながら、観光に関連する町内の各組織、さらには広域的な視点での観光振興を推進する組織づくりを行う。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・新幹線の開業による経済効果を地域全体に広げることを目指し、観光消費を町内の各産業分野に波及させる取組みを推進
- ・黒松内町や豊浦町に行く人も長万部駅を利用することになる。長万部町単体ではなく長万部駅の利用圏を広域的な視点でカバーする組織づくり
- ・SNSによる情報発信など観光客の情報入手手段の変化に対応した情報発信手法の展開

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
長万部駅利用促進に向けた広域的な連携組織の可能性・方向性を検討 【町、観光協会、近隣自治体】												
							広域連携 DMO 組織の構築 【町、観光協会、広域的な連携組織】					
							新幹線開業に向けたキャンペーンの展開 【町、観光協会、広域的な連携組織】					

KPI

長万部駅の駅勢圏（長万部町、北部檜山、南後志、西胆振）の観光入込客数

（現状値：2016年度 14,008千人）→（目標値：2031年度 20,000千人）

【事例】 長野県飯山市の広域観光推進組織「信州いいやま観光局」の取組み

(<http://www.city.iiyama.nagano.jp/>)

北陸新幹線飯山駅が開業した長野県飯山市を中心としたエリアでは、新幹線開業効果の拡大や増加する外国人観光客への対応強化、観光による地域経済への波及拡大などを目的として、広域的な観光推進組織である「信州いいやま観光局」を立ち上げ、新幹線飯山駅の観光情報提供窓口（下写真）でも広域的な観光情報を提供しています。



▶ 施策②：駅周辺エリアにおける町内および広域的な観光情報の提供

→駅構内やまちの駅などにおける町内及び広域的な観光情報の提供を行う。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・南後志や西胆振の情報も含め、黒松内の体験プログラムが長万部で予約できるなど長万部駅の駅勢圏を対象とした広域的な観光情報の提供
- ・駅に降り立った人が改札を出た時に、一目でわかりやすい情報提供の工夫
- ・動画やSNSなど観光情報取得方法の変化への対応や外国人に対する情報提供の展開

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
長万部駅利用促進に向けた広域的な連携組織の可能性・方向性を検討 【町、観光協会、近隣自治体】												
広域的な情報提供のあり方や枠組みを決定 【町、観光協会、広域的な連携組織】												
広域連携DMO組織など新たな情報提供主体による 広域的な情報提供の試行・改善 【広域連携DMO組織、観光協会】												

KPI

広域的な観光案内を行うWEBサイトの年間閲覧者数

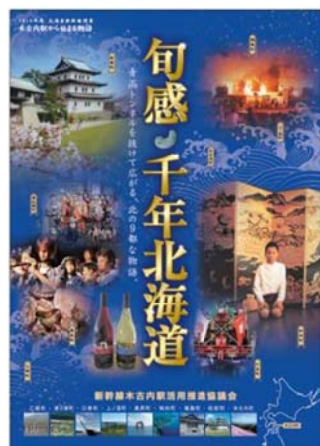
(現状値：2017年度 なし) → (目標値：2031年度 10千PV※)

※PVはページビューの略で閲覧者数の単位

【事例】 新幹線木古内駅活用推進協議会による広域的な観光情報提供

(<http://www.town.kikonai.hokkaido.jp/>)

木古内町を中心とした道南西部の9町では、新幹線木古内駅開業にあたって広域的に連携した地域のPRに取り組みました。



- ▶ **施策③：地域において急激に変化する観光市場の動向に対応できる人材育成**
 →長万部駅を核とした広域的な連携や観光・他産業との連携を推進する人材の育成や誘致を行う。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・外国人観光客からの予約など外国人観光客に対応できるような人材の育成・誘致
- ・動画やSNSなども含め、観光情報取得方法の変化に対応できる人材の育成
- ・体験プログラムをガイドできる人材の育成
- ・長万部駅を核とした広域的な連携や他産業との連携を推進する人材の育成・誘致

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
長万部駅利用促進に向けた広域的な連携組織の可能性・方向性を検討 【町、観光協会、近隣自治体】												
							広域連携DMO組織を担う人材の誘致・育成 【町、観光協会、広域的な連携組織】					

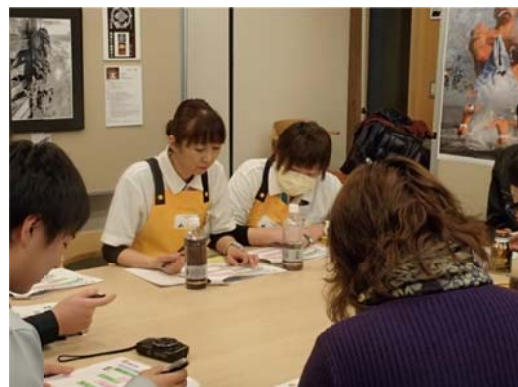
KPI

長万部駅の駅勢圏（長万部町、北部檜山、南後志、西胆振）の外国人延べ宿泊者数
 （2017年度 933千人）→（2031年度 1500千人）

【事例】 木古内町の外国人観光客対応に向けた人材育成の取組み

(<http://www.town.kikonai.hokkaido.jp/>)

木古内町では、飲食店や小売店などで接客の最前線に立つ方を対象として外国人観光客の接客に関するセミナーを実施しています。



【 Ⅲ－５ 移住定住の促進 】

▶ 施策：長万部町内への移住・定住の促進

→新幹線によるアクセス性の向上など滞在拠点としての長万部のポテンシャルを最大限に活用した移住・定住の促進を図る。

－ 議論を踏まえた方向性 －

- ・新幹線によって札幌や函館からのアクセスが飛躍的に向上する立地条件の活用した移住・定住の促進
- ・いなか暮らしが楽しめるのは重要な資源であり、交通便利性や自然環境を活かした長万部らしい新たなライフスタイルを模索・構築
- ・既存の資産（土地・空家など）や都市基盤（水道・道路など）の有効活用

－ スケジュール －

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
移住・定住促進に向けた戦略づくりの検討【町、不動産所有者など】												
			移住・定住促進に向けて活用可能な不動産(空家・土地等)の調査【町】									
			移住・定住促進に向けた優遇制度検討【町、不動産所有者など】									
							新幹線開業を見据えた 移住・定住促進のPR展開及び優遇制度の運用 【町、観光協会、不動産所有者など】					

KPI

長万部町内における転入者数

(2016年 450人/年) → (2031年 600人/年以上)

— 参考資料 —

- ・ 推進黨議設置要綱及び委員名簿
- ・ 推進黨議部會設置要領
- ・ 長万部まちづくり推進黨内プロジェクトチーム會議設置要領
- ・ 北海道新幹線長万部駅建設促進連絡・調整會議設置要綱

長万部まちづくり推進会議設置要綱

(目的及び設置)

第1条 北海道新幹線の長万部駅開業を見据え、新幹線を核としたまちづくりや地方創生の推進について、官民が一体となって検討・協議するため、長万部まちづくり推進会議（以下、「会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 会議の所掌事務は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 駅周辺整備を含めたまちづくりの推進に関する事項
- (2) 長万部町創生総合戦略の推進に関する事項
- (3) その他、目的の達成に必要な事項

(組織)

第3条 会議は、委員25名以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者の中から、町長が委嘱する。

- (1) 町長が必要と認める団体等からの推薦者又は代表（22名以内）
- (2) 町民からの一般公募者（3名以内）

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱を受けた日から2年以内とする。

(会長及び副会長)

第5条 会議に会長及び副会長を各1名置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によりこれを決める。
- 3 会長は、会議を代表して会務を総理し、会議の議長となる。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 会議は、町長が招集する。

(委員以外の出席)

第7条 会議が必要と認めたときは、委員以外のものの出席を求め、その意見を聴くことができる。

(専門部会)

第8条 会議には、必要に応じて専門部会を設けることができる。

(事務局)

第9条 会務の執行を図るため、事務局を置く。

2 事務局は、まちづくり新幹線課内に置く。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成28年6月24日から施行する。

2 長万部町創生総合戦略推進協議会設置要綱は、廃止する。

長万部まちづくり推進会議 委員名簿

平成30年1月22日現在

所属団体	氏名	
新函館農業協同組合 (長万部町和牛生産改良組合)	佐野 孝一	
長万部町畑作生産組合	三原 智	
長万部漁業協同組合 (青年部)	種市 大嗣	
長万部漁業協同組合 (女性部)	星 あつ	
長万部商工会 (青年部)	橋本 拓也	
長万部観光協会	金谷 圭一郎	
長万部観光協会	大槻 千春	
長万部温泉利用協同組合	高井 優一	
J R北海道(株)函館支社長万部駅	及川 孝	
東京理科大学	榎本 一之	副会長
北洋銀行長万部支店	谷 範裕	
北海信用金庫長万部支店	古瀬 広樹	
長万部地区連合会	細川 篤	
NPO法人長万部町緑と樹を愛する会	高野 亮三	
NPO法人おしゃまんべ夢倶楽部	山内 恵二	
北海道新幹線建設促進長万部町期成会	赤塚 顕爾	会長
長万部を創造する会	高島 悟	
新幹線まちづくりワークショップ	佐藤 智美	
長万部高等学校	(生徒会役員)	
長万部高等学校	(生徒会役員)	
一般公募	佐々木 勉	
一般公募	辰巳 治典	
合計人数	22人	

長万部まちづくり推進会議部会設置要領

(目的)

第1条 この要領は、長万部まちづくり推進会議設置要綱第8条の規定に基づき、長万部まちづくり推進会議（以下、「会議」という。）の依頼を受けた事項について、検討・協議する部会に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(組織)

第2条 会議には次の部会を設置する。

- (1) 観光振興部会
 - (2) まちなみ部会
 - (3) 地方創生部会
- 2 各部会の委員（以下、「部会委員」という。）は、長万部まちづくり推進会議の委員（以下、「会議委員」という。）をもって組織する。
- 3 各部会の所掌事務は、次に掲げるとおりとする。
- (1) 観光振興部会について、観光資源の発掘・磨き上げ、長万部温泉街の活性化等に関する事項
 - (2) まちなみ部会について、中心市街地の活性化、まちの駅等に関する事項
 - (3) 地方創生部会について、長万部町創生総合戦略に基づく事業計画や評価等に関する事項

(任期)

第3条 部会委員の任期は、会議委員の任期と同じ時期までとする。

(部会長及び副部会長)

- 第4条 部会に部会長及び副部会長を各1名を置く。
- 2 部会長及び副部会長は、部会委員の互選によりこれを決める。
 - 3 部会長は部会を代表して会務を総理し、部会の議長となる。
 - 4 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 部会は部会長が招集する。

(庶務)

第6条 部会の庶務は、まちづくり新幹線課において処理する。

(その他)

第7条 この要領に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は部会長が別に定める。

附 則

この要領は、平成28年7月5日から施行する。

附 則

この要領は、平成29年7月6日から施行する。

長万部まちづくり推進庁内プロジェクトチーム会議設置要領

(名称)

第1条 この会議は、長万部まちづくり推進庁内プロジェクトチーム会議（以下、「PT」という。）と称する。

(目的)

第2条 PTは、地方創生事業やまちづくり事業等（以下、「事業」という。）について、計画の策定や検討、検証・改善などを実施し、事業が効率的、効果的に推進されることを目的とする。

2 PTは、前項の目的を達成するため、長万部まちづくり推進会議等との連携に努める。

(所管事務)

第3条 PTの所管事務は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 長万部町創生総合戦略に基づく事業計画やKPI指標の設定、効果の検証と改善策の立案等に関する事項
- (2) 駅周辺整備を含めたまちづくりの推進に関する事項
- (3) その他、目的の達成に必要な事項

(構成)

第4条 PTは、別表の特別職・管理職により構成する。

- 2 町長をリーダー、副町長及び教育長をサブリーダーとし、その他の管理職をメンバーとする。
- 3 会議の円滑な運営を補助するため、リーダーが指名する者により幹事会を置くことができる。
- 4 リーダーは必要に応じ、メンバー以外の者に対し、会議への出席を求めることができる。
- 5 事務局は、まちづくり新幹線課に置く。

(会議の招集)

第5条 会議は、リーダーが招集する。幹事会は必要に応じ、サブリーダーが招集する。

(その他)

第6条 この要領に定めるもののほか、PTの運営に関し必要な事項は、リーダーが会議に諮って定める。

附 則

- 1 この要領は、平成28年8月22日から施行する。
- 2 長万部町創生総合戦略推進庁内プロジェクトチーム設置要領は、廃止する。
- 3 新幹線を核としたまちづくり実行計画策定庁内プロジェクトチーム設置要領は、廃止する。

附 則

この要領は、平成29年4月1日から施行する。

別表（第4条関係）

構成

役 職	職 名	備 考
チームリーダー	町長	
サブリーダー	副町長	
サブリーダー	教育長	
メンバー	総務課長	
同上	税務課長	
同上	町民課長	
同上	保健福祉課長	
同上	保育所長	
同上	産業振興課長	
同上	産業振興課参事	
同上	建設課長	
同上	水道ガス課長	
同上	出納室長	
同上	議会事務局長	
同上	教育委員会事務局教育次長	
同上	教育委員会事務局参事	
同上	消防長	
同上	消防署長	
同上	病院事務長	
事務局	まちづくり新幹線課長	
同上	まちづくり新幹線課参事	
同上	新幹線・政策推進係	

北海道新幹線長万部駅建設促進連絡・調整会議設置要綱

(名 称)

第1条 この会は、北海道新幹線長万部駅建設促進連絡・調整会議（以下「連絡・調整会議」という。）と称する。

(目 的)

第2条 平成27年1月の政府・与党申合せにおいて開業の5年前倒しを目指すことが決定された北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）について、長万部町内における新幹線建設工事を促進するため、建設工事の進捗よく状況に関する情報を共有するとともに、必要な検討、調整等を行う。

(所掌事項)

第3条 連絡・調整会議は、前条の目的を達成するため、次の事項を所掌する。

- (1) 長万部町内における新幹線建設工事の進捗よく状況の把握
- (2) 長万部駅などの新幹線建設工事を円滑に進めるための調整等
- (3) その他目的を達成するために必要な事項

(組 織)

第4条 連絡・調整会議は、別表に掲げる職にあるものをもって構成する。

- 2 連絡・調整会議の座長は、長万部町副町長をもって充てる。
- 3 長万部町副町長が不在の場合は、長万部町まちづくり新幹線課長がその職務を代理する。

(会 議)

第5条 連絡・調整会議は、必要に応じ座長が招集する。

- 2 座長は、必要に応じて、関係者の出席を求めることができる。

(事務局)

第6条 連絡・調整会議の事務局は、長万部町まちづくり新幹線課に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、連絡・調整会議の運営に関し必要な事項は、座長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成28年9月8日から施行する。

この要綱は、平成29年9月6日から施行する。

別 表

北海道	総合政策部 交通政策局 新幹線推進室	新幹線推進室参事
	建設部 総務課	用地担当課長
	建設部 まちづくり局 都市計画課	新幹線基盤支援担当課長
	渡島総合振興局 函館建設管理部 用地管理室	用地管理室長
	渡島総合振興局 地域創生部 新幹線推進室	新幹線推進室長
独立行政法人 鉄道・運輸機構 北海道新幹線建設局		工事第四課長
		用地第三課長
		長万部鉄道建設所長
北海道旅客鉄道株式会社 総合企画本部 新幹線計画部		新幹線計画部主幹
長万部町		副町長
	まちづくり新幹線課	まちづくり新幹線課長
		まちづくり新幹線課参事
(オブザーバー)		
国土交通省 北海道開発局 函館開発建設部 道路計画課		道路計画課長
北海道土地開発公社		用地部長